高橋Ⅳ遺跡（古屋地区遺跡群）
発掘調査報告書

－老人スポーツ広場用地取得事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

２００９

群馬県安中市教育委員会

高橋Ⅳ遺跡（古屋地区遺跡群）
発掘調査報告書

－老人スポーツ広場用地取得事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

２００９

群馬県安中市教育委員会

高橋Ⅳ遺跡群全景

K-1号墳出土刀1

K-1号墳出土刀2

序

安中市は群馬県の西南部に位置し、上毛三山に囲まれた田園都市です。高橋Ⅳ遺跡は九十九川の「花の木橋」の下流右岸に位置しています。本遺跡は、団体営担い手育成基盤整備事業古屋地区の事業実施に先立ち、平成11年度から平成15年度にかけて調査が行われた、『古屋地区遺跡群』に含まれる遺跡です。

古屋地区遺跡群は、平成11年度に高橋遺跡・13年度に高橋Ⅱ遺跡・14年度に高橋Ⅲ遺跡の調査が行われ、八咫川が九十九川に注ぎ込む流末の舌状微高地先端部分に、弥生時代から古墳時代にかけての大規模な村の跡が発見されました。本遺跡は古屋地区遺跡群の北西端に位置し、弥生時代から古墳時代にかけての村の続きが発見されました。

今回の発掘調査では、弥生時代の住居址７軒、５世紀後半の住居址３軒、６世紀前半の住居址１軒、古墳１基が検出されました。高橋遺跡・高橋Ⅱ遺跡・高橋Ⅲ遺跡と合わせ、当時の村の集落構成などを解明する上で、貴重な資料を得ることが出来ました。

発掘調査はこの様な貴重な文化財を後世に残すことを目的とし、記録保存の措置を講ずるものです。

こうした埋蔵文化財はかけがえのない郷土の遺産であり、市民のみなさまに郷土の歴史を学習していただけるよう広く活用を図り、文化財愛護の精神を広く普及するよう努めていく所存です。

終わりに、長期に渡る発掘調査に御協力いただいた地元の皆様や、安中市の文化財行政の一端を担い、発掘調査に従事していただいた方々には、この場を借りて感謝の意を表したいと存じます。

平成21年３月

安中市教育委員会
教育長　中澤　四郎

例　　言

1　本書は安中市土地開発公社が実施した老人スポーツ広場用地取得事業に伴う高橋Ⅳ遺跡（D－23）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2　発掘調査は平成19年度に行い、遺物整理は平成19年度から平成20年度に安中市土地開発公社より委託を受けて実施した。
3　発掘調査は安中市教育委員会直営で実施し、学習の森文化財係主査（文化財保護主事）千田茂雄が担当、鬼形敦子が補佐をした。
4　本書の編集・執筆等は千田、鬼形、上原由美が行った。
5　遺構の写真撮影は千田が行った。航空写真は（株）測研に委託して行った。
6　遺構の版組、写真図版の作成は、千田、鬼形、上原が行った。
7　土器実測・トレース・属性表作成の一部を（有）毛野考古学研究所に委託して行った。
8　遺物写真の撮影は（有）毛野考古学研究所に委託して行った。
9　調査区の国家座標取付及び、測量基準杭の設置は（株）桜井測量設計が実施した。
10　今回の調査における記録、出土遺物は安中市教育委員会が保管している。
11　調査及び遺物整理の期間中多くの方々に有益な指導、助言、協力を行っていただいた。また発掘調査及び遺物整理に従事していただいた方に厚くお礼申し上げます。

（指導・助言　敬称略）

折舘伸二　外山政子　長井正欣　畑　大介　平野進一　三浦京子　（有）毛野考古学研究所　（株）桜井測量設計　若狭　徹

（調査従事者　敬称略）

岩井英雄　上原由美　宇佐美璋一　小野　毅　鬼形敦子　萩原治枝　廣上良枝　（故）山本吉輝

調査組織

平成19年度

教育委員会事務局

教育長	中澤四郎
教育部長	佐藤伸太郎
学習の森所長	小島成公
文化財係長	藤巻正勝
主査	蜂須賀　まゆみ
同	（文化財保護主事）壁　伸明
同	（文化財保護主事）千田茂雄（調査担当）
同	（文化財保護主事）深町　真
同	新井雅彦
主任	（文化財保護主事）井上慎也

平成20年度
教育委員会事務局
教　育　長　　中　澤　四　郎
教 育 部 長　　本　田　英　夫
学習の森所長　　小　島　成　公
文化財係長　　藤　巻　正　勝
主　　査　　蜂須賀　まゆみ
　同　　（文化財保護主事）壁　　伸　明
　同　　（文化財保護主事）千　田　茂　雄（調査担当）
　同　　（文化財保護主事）深　町　　真
　同　　新　井　雅　彦
主　　任　　（文化財保護主事）井　上　慎　也

凡　　例

1．高橋Ⅳ遺跡全体図の縮尺は１／400・１／200である。
2．住居址等遺構の縮尺は１／80・１／160・１／320である。
3．遺物の縮尺は次のとおりである。
　土　器　１／４
　埴　輪　１／４
　　刀　　１／５
4．土層説明中での記号、略称は次の通りである。
　色調＜：より明るい方向を示す（例１＜２：１より２の方が明るい）
　しまり、粘性　◎：あり、○：ややあり、△：あまりない、×：なし
　混入物　◎：大量、○：多量、△：少量、＊：若干、×：なし、
　ＷＰ：白色粒子、ＹＰ（Ａｓ－ＹＰ）：板鼻黄色軽石層、ＲＰ：ローム粒子、ＲＢ：ロームブロック、Ｂ（Ａｓ－Ｂ）：浅間Ｂ軽石、ＢＰ：板鼻褐色軽石層
5．住居址実測図の●はセクション及びエレベーションのポイントを示す。
6．柱穴のスクリントーンは
　20～39　　40～59　　60～

本文目次

序
例　言
凡　例
本文目次
挿図目次
表 目 次
図版目次

Ⅰ　調査に至る経過…… 1
Ⅱ　調査の方法と経過…… 1
Ⅲ　遺跡の地理的・歴史的環境…… 2
Ⅳ　層序…… 6
Ⅴ　遺跡概要…… 7
Ⅵ　遺構と遺物…… 9
Ⅶ　まとめ…… 47

挿図目次

第１図　高橋Ⅳ遺跡と周辺遺跡の位置図…… 3
第２図　高橋Ⅳ遺跡調査区設定図…… 4
第３図　高橋遺跡・高橋Ⅳ遺跡グリッド対応図… 5
第４図　基本層序柱状図…… 6
第５図　高橋Ⅳ遺跡全体図…… 8
第６図　Y-1号住居址実測図 …… 11
第７図　Y-2（A)・(B）号住居址実測図 …… 12
第８図　Y-3（A)・(B）号住居址実測図 …… 13
第９図　Y-5号住居址実測図 …… 14
第10図　YH-1（Y住）号住居址実測図 …… 15
第11図　YH-1（H住）号住居址実測図 …… 16
第12図　H-1号住居址実測図…… 17
第13図　H-2号住居址実測図…… 18
第14図　H-3号住居址実測図…… 19
第15図　K-1号墳実測図 …… 20
第16図　K-1号墳石室実測図 …… 21
第17図　Y-1号住居址出土の遺物 …… 23
第18図　Y-2号住居址出土の遺物 …… 24
第19図　Y-3号住居址出土の遺物 …… 25
第20図　Y-3号・Y-5号住居址出土の遺物 … 26
第21図　YH-1号住居址出土の遺物 …… 27
第22図　H-1号・H-2号・H-3号住居址出土の遺物 … 28
第23図　K-1号墳　埴輪1 …… 29
第24図　K-1号墳　埴輪2 …… 30
第25図　K-1号墳　埴輪3 …… 31
第26図　K-1号墳　埴輪4 …… 32
第27図　K-1号墳　埴輪5 …… 33
第28図　K-1号墳　埴輪6 …… 34
第29図　K-1号墳　土器 …… 34
第30図　K-1号墳　刀実測図 …… 35
第31図　16分割遺物出土分布図（1）…… 43
第32図　16分割遺物出土分布図（2）…… 44
第33図　16分割遺物出土分布図（3）…… 45
第34図　16分割遺物出土分布図（4）…… 46

表 目 次

第１表　住居址観察表…… 22
第２表　出土土器観察表（1）…… 36
第３表　出土土器観察表（2）…… 37
第４表　出土土器観察表（3）…… 38
第５表　出土土器観察表（4）…… 39
第６表　出土土器観察表（5）…… 40
第７表　埴輪観察表（1）…… 41
第８表　埴輪観察表（2）…… 42
第９表　刃観察表…… 42

図版目次

図版１　高橋Ⅳ遺跡遠景　高橋Ⅳ遺跡全景
図版２　高橋Ⅳ遺跡全景　K-1号墳全景
図版３　Y-1・H-3　Y-2（A)・(B)　Y-3（A)・(B)　Y-5
図版４　YH-1　H-1　H-2　K-1
図版５　K-1
図版６　Y-1号住出土遺物
図版７　Y-2号住出土遺物（1）
図版８　Y-2号住出土遺物（2）
図版９　Y-3号住出土遺物（1）
図版10　Y-3号住出土遺物（2）
図版11　Y-3号住出土遺物（3）
図版12　Y-5号住出土遺物
図版13　YH-1号住出土遺物（1）
図版14　YH-1号住出土遺物（2）　H-1号住出土遺物
図版15　H-2号住出土遺物　H-3号住出土遺物（1）
図版16　H-3号住出土遺物（2）　K-1号墳出土遺物
図版17　K-1号墳　埴輪（1）
図版18　K-1号墳　埴輪（2）
図版19　K-1号墳　埴輪（3）
図版20　K-1号墳　埴輪（4）
図版21　K-1号墳　埴輪（5）
図版22　K-1号墳刀1　K-1号墳刀2

Ⅰ　調査に至る経過

平成18年安中市土地開発公社より、老人スポーツ広場用地取得事業に係る埋蔵文化財の取り扱いに関し協議を行いたいとの申し出が、市教育委員会にあった。該当地区は市内遺跡詳細分布調査により、周知の遺跡地として確認されている場所であり、また団体営担い手育成基盤整備事業古屋地区の事業実施に先立ち、平成11年度から平成15年度にかけて調査が行われた、『古屋地区遺跡群』の北西端に位置し、弥生時代から古墳時代にかけての村の続きが発見される可能性が非常に高い旨を市土地開発公社に回答した。

その後市土地開発公社と市教育委員会の間で、文化財保護のための協議を行った。協議に於いては文化財保護のための計画変更をも含め、再三にわたり行われた。

しかし地元の要望も大きく、計画変更をしても埋蔵文化財への影響は避けられないことから、当初の計画どおり事業を実施することとなった。

そのため市教育委員会では、事業実施により埋蔵文化財に影響を受ける部分について発掘調査を実施し、記録保存の措置を講ずることとなった。

Ⅱ　調査の方法と経過

調査はまず、対象地区内に試掘トレンチを開け、埋蔵文化財の有無の確認を行った。埋蔵文化財の存在が確認された箇所については、事業実施に伴い埋蔵文化財に影響が生じる範囲に限定し発掘調査を行った。

発掘調査に於いては、今回の調査対象地区が『古屋地区遺跡群』の高橋遺跡北西端に位置することから、『古屋地区遺跡群』で設定したグリッドを延長してグリッド設定を行った（高橋遺跡・高橋Ⅳ遺跡グリッド対応図参照）。グリッドは、１グリッドが４ｍ×４ｍで北西隅を基点とし、北から南へＡ、Ｂ、Ｃ…西から東へ１、２、３…と呼称するようにした。また、グリッドをさらに四分した２ｍ×２ｍの細グリッドを設定し、北西、北東、南西、南東の順にアルファベットの小文字でａ、ｂ、ｃ、ｄと呼称することにした。そして、座標値は国家座標に取り付けた。国家座標値は、１Ｂ－２グリッドがＸ＝36544.0、Ｙ＝－86836.0、1Ｏ－９グリッドがＸ＝36492.0、Ｙ＝－86808.0、１Ｊ－10グリッドがＸ＝36512.0、Ｙ＝－86804.0である。

調査はバックホーによりⅣ層（灰色泥流層）上面まで掘削し、その後人力により遺構、遺物の確認作業を実施した。確認された遺構は順次精査を行い、遺構測量用の航空写真撮影を行い遺構図を作成した。航空写真及び遺構測量航空写真は株式会社測研に委託し、ラジコンヘリコプターにより行った。また各遺構やテストトレンチの土層断面図は、それぞれ必要に応じ縮尺１／40を基本として作成した。

遺物の取り上げは基本的に各遺構ごとに行った。住居址についてはセクションのラインを基準に16に分割し、各層位ごとに分層して取り上げる16分割分層方式にて行った。しかし遺構

が重複し、プラン確認時点に於いて各遺構の広がりや切り合い関係が明確でない場合、全体を覆うように分割を行い、北西隅を基点とし東側に進むよう通し番号を付けることとした。遺構以外の部分については、グリッドを四分した２ｍ×２ｍの細グリッドで層位毎に取り上げた。また、必要に応じて、遺構・遺物の写真撮影を行った。

遺物整理は、発掘調査と平行しながら平成20年度までの間断続的に実施した。

作業は、遺物の水洗・注記→接合・復元→実測・拓本→トレース・写真撮影の順で行い、並行して遺構図面の整理・素図作成、トレース、写真整理を行った。遺物の実測・トレース・属性分析等の一部は整理作業の省力化を行うため、有限会社毛野考古学研究所に業務委託した。

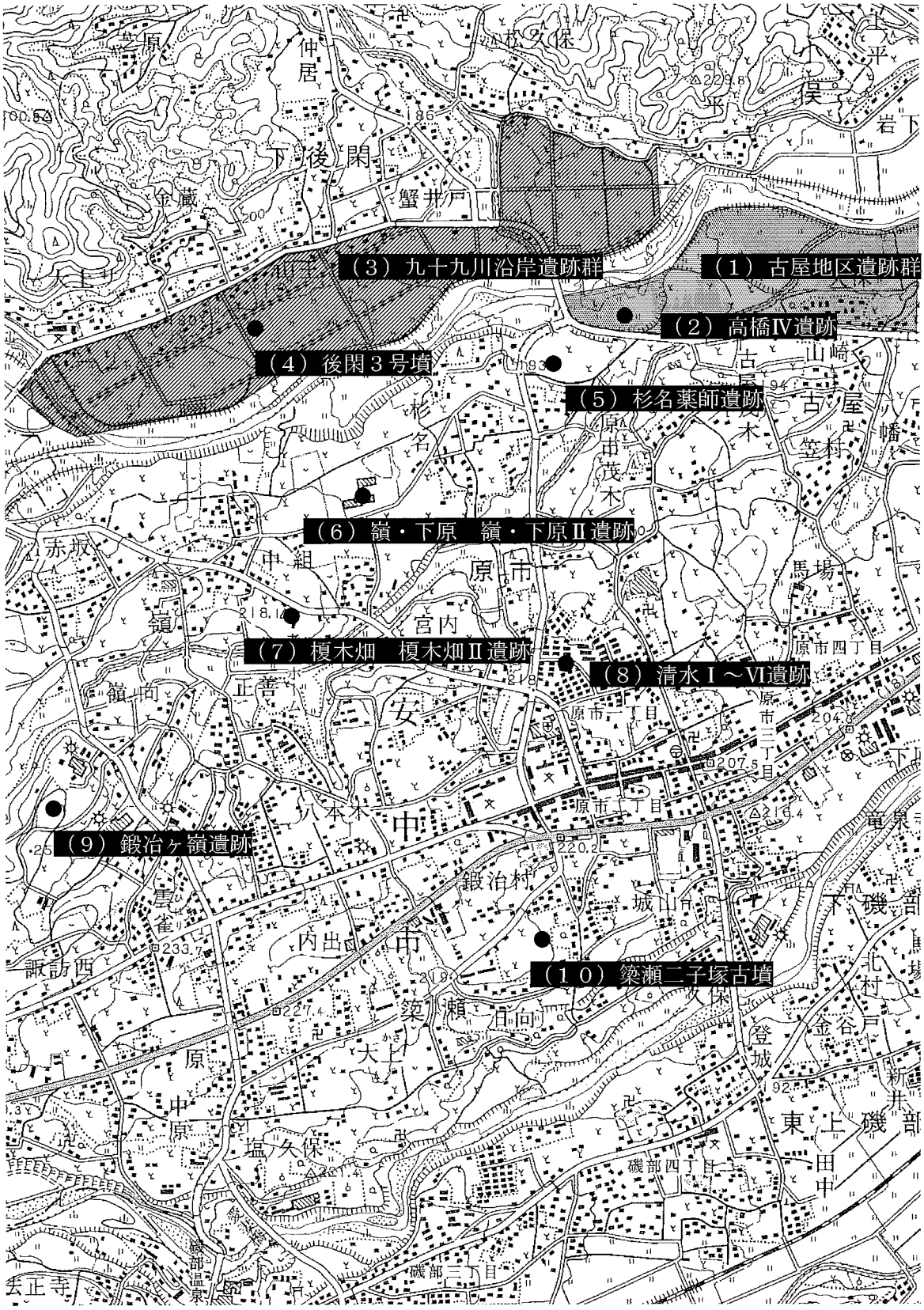
Ⅲ　遺跡の地理的・歴史的環境

古屋地区遺跡群は群馬県安中市古屋に存在し、市内上後閑・中後閑・下後閑を流れる九十九川中流域の低地に広く位置する。九十九川の流域には、西方の松井田町から続く連続性の良い河岸段丘が発達し流域に広く分布している。九十九川とそれに合流する後閑川付近の河川南岸には下位段丘面が見られ、下位段丘の段丘崖も連続して続いている。九十九川の流域は市内の他の河川と比べても広い低地が広がっており、川幅も広く緩やかな谷底となり、現在も水田耕作が盛んに行われている。

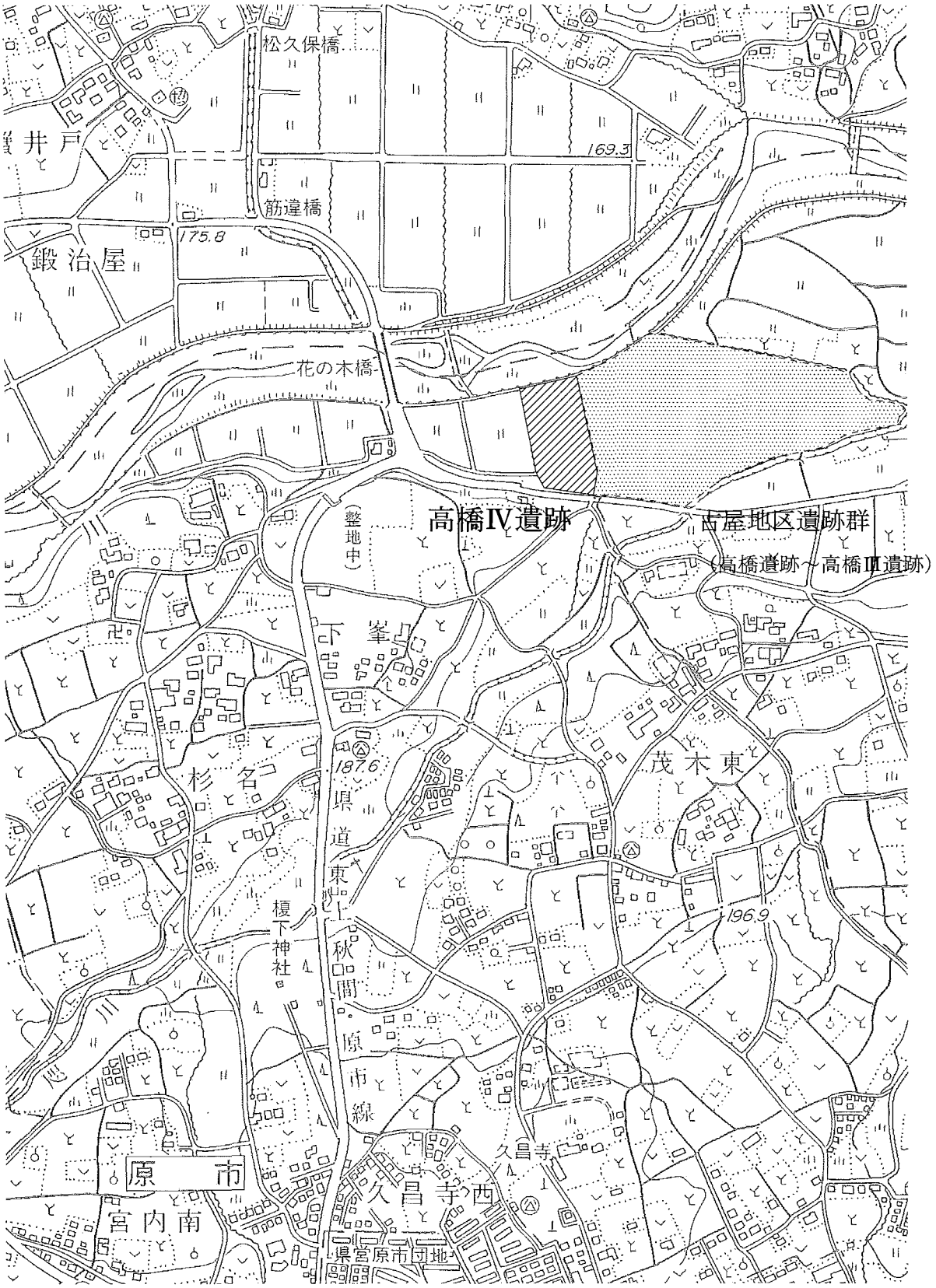
周辺の遺跡を概観すると、本遺跡の上流の九十九川低地には、Ａｓ－Ｂ軽石直下の水田址を確認した九十九川沿岸遺跡群（３）が存在する。九十九川沿岸遺跡群と本遺跡は同じ河川低地に広がっているため九十九川沿岸遺跡群同様Ａｓ－Ｂ軽石直下の水田址の存在が予想されたが、河川氾濫による土砂の流出により水田址を確認することはできなかった。また、九十九川沿岸遺跡群中には６世紀初めに造られたと考えられる後閑３号墳（４）がある。この古墳は、関東地方では最も古い横穴式石室を有する古墳の一つとして知られる、梁瀬二子塚古墳（10）と密接な関係があったと考えられている。

次に、九十九川の河岸段丘上に目を移すと、弥生時代・古墳時代の集落遺跡である杉名薬師遺跡（５）が存在する。本遺跡は杉名薬師遺跡の北東約400㍍に位置し、同時期の集落遺跡のため両者の関係が注目される。このほか縄文時代前期後半から中期及び奈良・平安時代の集落遺跡である榎木畑遺跡（７）。奈良・平安時代の工房あるいは官衙的な性格が推測される嶺・下原、嶺・下原Ⅱ遺跡（６）。縄文時代前期前半、奈良時代の住居址を確認した清水遺跡Ⅰ区（８）、縄文時代前期、中期、平安時代の住居址及び奈良時代の官的な資格を持つと考えられる掘立柱建物址を確認した鍛冶ヶ嶺遺跡（９）。奈良時代の集落と、東日本に於いて初めて検出された中世（15世紀末から16世紀初頭）の瓦質陶器生産窯の清水遺跡Ⅱ区（８）等がある。

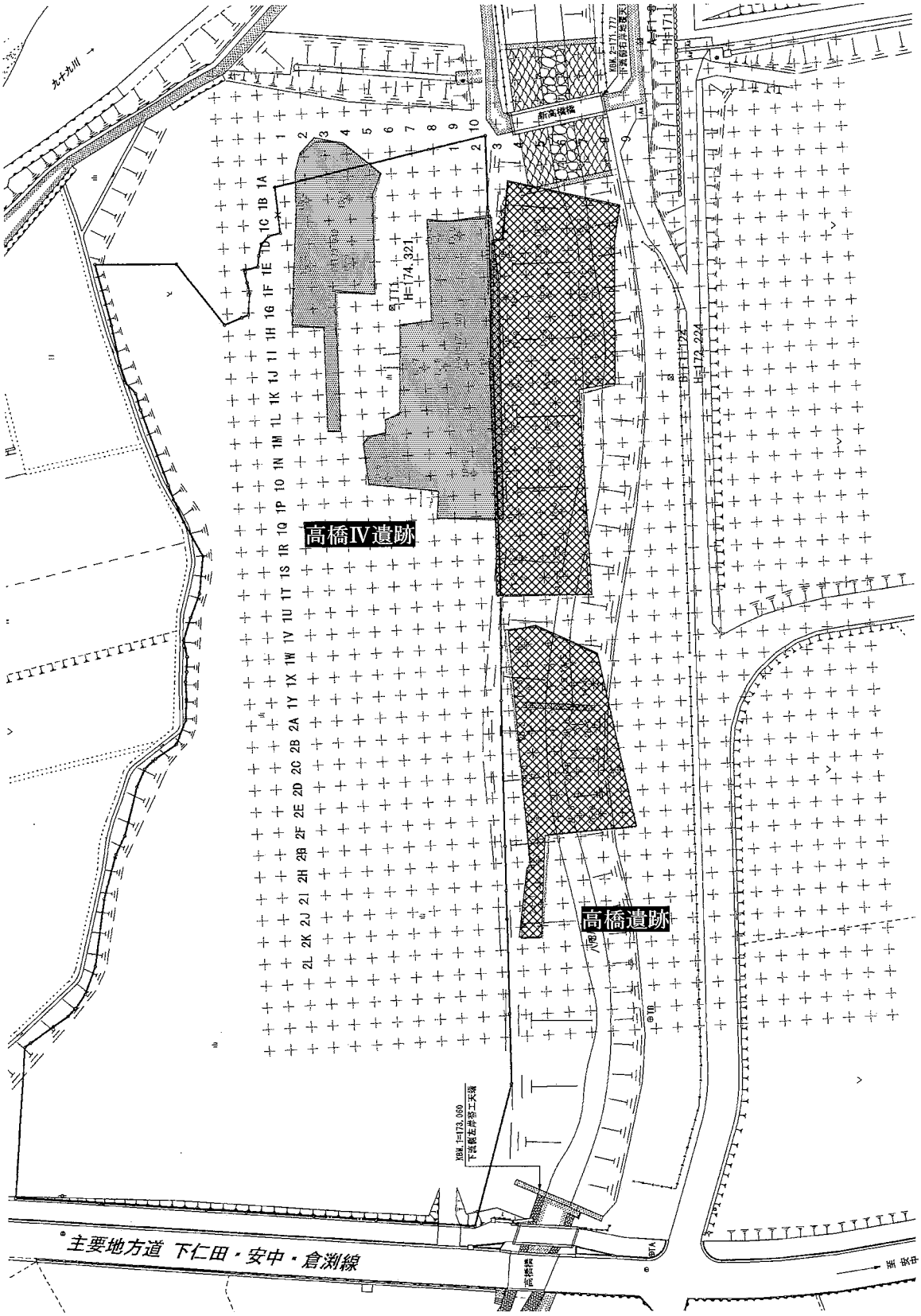
この様に、九十九川上位段丘上の嶺地区は工房や官的な性格を持つ遺跡が数多く存在し、東山道との関係も含め古代を考える上で貴重な地区と言うことができる。



第１図　高橋Ⅳ遺跡と周辺遺跡の位置図



第２図　高橋Ⅳ遺跡調査区設定図



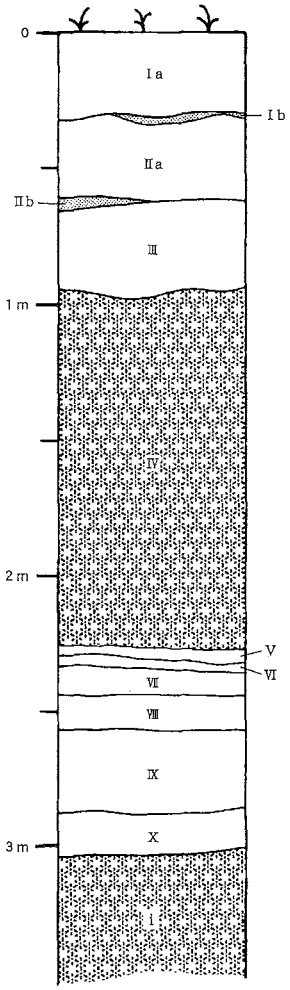
第３図　高橋遺跡・高橋Ⅳ遺跡グリッド対応図

Ⅳ　層　序

高橋Ⅳ遺跡の基本層序は、古屋地区遺跡群と同様で第４図のとおりである。Ⅰ層からⅢ層までは、安中市内の集落遺跡と同様な層順を示すが、Ⅲ層以下は泥流層が２枚確認され、高橋遺跡特有の土層堆積が確認された。

Ⅰ層からⅢ層の間には指標テフラである浅間Ａ軽石（Ａｓ－Ａ：1783年降下)、浅間Ｂ軽石（Ａｓ－Ｂ：1108年降下）が確認される。しかし、両テフラとも後世の耕作などにより除去されており、調査区内に部分的に確認されるにとどまる。

Ⅳ層・Ｘ層は泥流層で、４層には浅間板鼻褐色軽石群（As-BP)・浅間大窪沢第１軽石（As-Ok１)・浅間板鼻黄色軽石（As-YP)、ｉ層には浅間板鼻褐色軽石群（As-BP)・浅間板鼻黄色軽石（As-YP)・浅間大窪沢第１軽石（As-Ok1)・浅間大窪沢第２軽石（As-Ok2）などが確認されている。詳細は『古屋地区遺跡群』を参照されたい。



Ⅰａ層	黒褐色土層	浅間Ａ軽石を多量に混入する。現在の耕作土で、しまり、粘性共にあまりない。
Ⅰｂ層	灰白色軽石層	浅間Ａ軽石純層。部分的に確認できる。
Ⅱａ層	黒色土層	粘性はややあるが、しまりはあまりない。Ａｓ－Ｂ軽石を多量に混入する。
Ⅱｂ層	灰褐色軽石層	浅間Ｂ軽石純層。全域で５～15cm前後堆積している。
Ⅲ層	黒色土層	Ａｓ－Ｂ軽石はまったく混入しない。古墳時代から奈良・平安時代の遺構の覆土の主体を成す層である。粘性はややあるが、しまりはあまりない。
Ⅳ層	灰色泥流層	しまり粘性共に有り、拳大の礫を多く含む。
Ⅴ層	黒褐色土層	しまり粘性共に有り、黄灰色軽石を含む。
Ⅵ層	黄灰色軽石層	しまりを持つが粘性は低い。
Ⅶ層	黒色土層	しまり粘性共に有り、黄白色軽石を少量含む。
Ⅷ層	黒褐色土層	しまり粘性共に有り、黄白色軽石を多く含む。
Ⅸ層	暗褐色土層	しまりは強く粘性も持つ。黄白色軽石を多く含む。
Ⅹ層	灰褐色粘質土層	しまり粘性共に強く、黄色軽石を含む。
ｉ層	黄色泥流層	しまり粘性共に強く、拳大の礫を多く含む。

第４図　基本層序柱状図

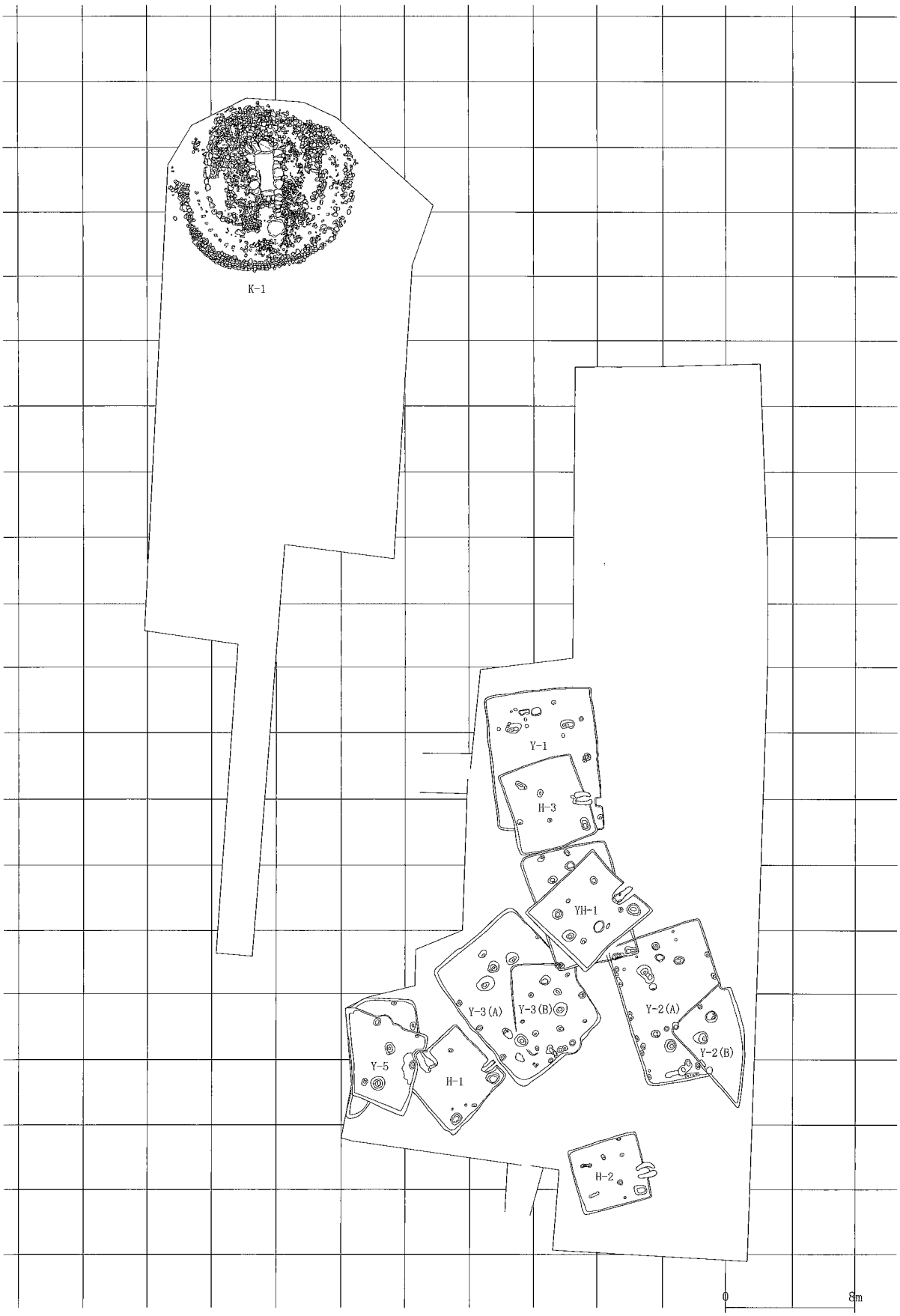
Ⅴ　遺跡概要

高橋Ⅳ遺跡は、八咫川が九十九川に注ぎ込む流末の舌状微高地に位置している。この舌状微高地は黒色土をはさむ２枚の泥流層の堆積で形成されていることが確認されており、八咫川の河川氾濫によるものと思われる。八咫川は松井田町上山名付近の丘陵に源を発し、九十九川の中位段丘面北側を深く谷を刻みながら流下し、古屋地区付近では下位段丘面を削り九十九川に合流している。

この微高地上は、平成11年度から平成15年度にかけて、『古屋地区遺跡群』（高橋遺跡、高橋Ⅱ遺跡、高橋Ⅲ遺跡）の調査が行われており、高橋Ⅳ遺跡も古屋地区遺跡群の一部を構成する遺跡である。

『古屋地区遺跡群』（高橋遺跡、高橋Ⅱ遺跡、高橋Ⅲ遺跡）では、弥生時代の住居址69軒、４世紀後半の住居址５軒、５世紀後半に住居址37軒、６世紀前半の住居址17軒、８世紀の住居址１軒、不明の住居址１軒、古墳８基、配石遺構１基、竪穴状遺構１基、掘立柱建物址１棟、溝２条が検出されている。

高橋Ⅳ遺跡からは、弥生時代の住居址７軒、５世紀後半の住居址３軒、６世紀前半の住居址１軒、古墳１基が確認された。



第５図　高橋Ⅳ遺跡全体図

Ⅵ　遺構と遺物　（第６図～第34図）

弥生時代

弥生時代の住居は樽式期のもので、７軒が検出された。

住居址は『古屋地区遺跡群』（高橋遺跡、高橋Ⅱ遺跡、高橋Ⅲ遺跡）と同様に、長軸が８㍍以上の大型のもの、長軸が７㍍前後の中型のもの、長軸が５㍍～６㍍の小型のものに分けることが出来る。住居址内の柱穴配置などを見ると、主柱穴は４本で北よりの主柱穴の間に炉を設置、炉の延長線上壁際に柱穴１本を持ち、それと対面側の壁際に２本～４本の柱穴が確認される、と言った構成が基本型となっている。また大型の住居址の中には、壁際に小さめな柱穴が規則的に配される例も見られる。

５世紀後半

５世紀後半の住居址は３軒検出された（YH-1・H-1・H-2）。

平面形態は正方形で、『古屋地区遺跡群』（高橋遺跡、高橋Ⅱ遺跡、高橋Ⅲ遺跡）の分類基準では小型（長軸が４㍍～５㍍）に分類される。

主柱穴は４本を基本とする様であるが、明確なものが確認出来ない遺構も多くあり、住居址堀込みの外側を含め、住居構造を考える必要があると思われる。

竈の位置を見ると、住居東壁中央から南寄りに設置されているものが多いが、H-1号住は、住居東壁南寄りと住居北壁西寄り２カ所に確認された。両竈の新旧関係は明確に確認することはできなかった。

６世紀前半

６世紀前半の住居址は１軒検出された（H-3）。

平面形態はほぼ正方形で、長軸・短軸が５㍍前後を計る。

主柱穴は、５世紀後半の住居址同様４本を基本とすると思われるが、明確には確認出来なかった。竈は住居東壁中央に設置されている。

古墳

K-1号墳　（第15・16図）

（１）墳丘及び外部施設

本墳は墳丘上部と基壇面北側からが削平されている状態であったが、残存部の状態は良好であった。周堀は確認できなかった。基壇面の立ち上がり部分には、80㌢～120㌢の高さで葺き石が残存していた。特に南面から西面にかけて良好な状態で検出された。基壇面南半分では、円筒埴輪列が約90㌢間隔で確認された。円筒埴輪上部は攪乱等により欠損が著しいが、残存部の依残状態は良好であった。

古墳の規模は、基壇面の直径で約21㍍の円墳と推定される。

（２）主体部

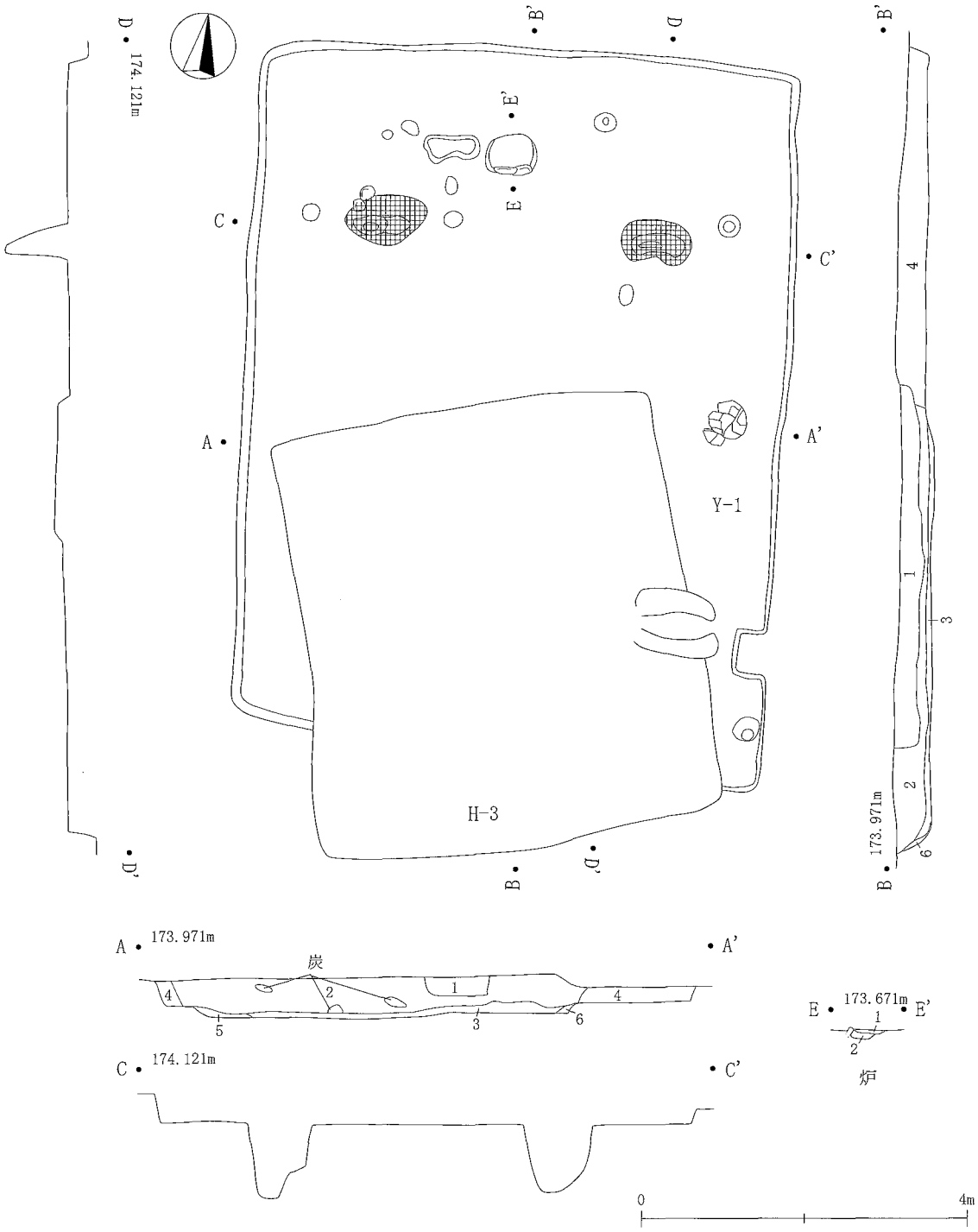
主体部は上面が削平されていたが、埋葬主体部は自然乱石積みの無袖型横穴式石室で、南に開口する。羨道部は長さ約４㍍、幅約１㍍で主軸方向はＮ－１°－Ｅを計る。羨道と玄室の境は框石で区画され、框石から奥壁まで約２㍍50㌢、幅約１㍍を計る。石室の構成材はいずれの石材も安山岩で、玄室奥壁には横長のものが使用されている。

（３）遺物

基壇面上の円筒埴輪列のほか、玄室内で直刀２点が出土した。

円筒埴輪列は基壇面南半分から確認された。北側については攪乱により削平されたものと思われる。各円筒埴輪は１段目が埋設される状態で、約90㌢の間隔を持って設置されている。

直刀はいずれも残りが良く、玄室内南西隅で２点重なって出土した。玄室内からの出土は直刀２点のみで、鉄製品や玉類などは検出されなかった。



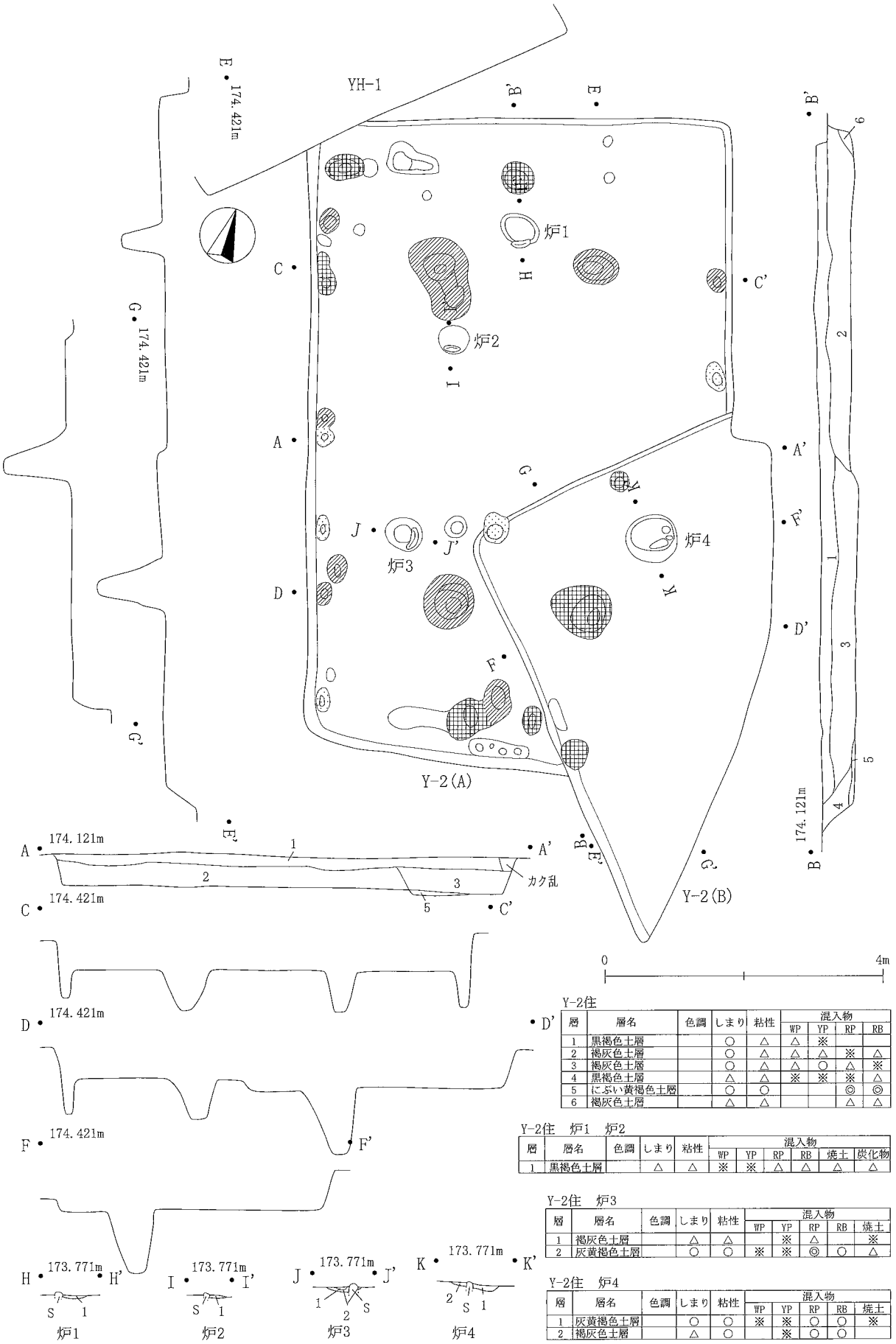
Y-1住

層	層名	色調	しまり	粘性	混入物					備考
					WP	YP	RP	RB	炭化物	
1	黒褐色土層		△	△	○	△				As-A混入多
2	暗褐色土層		○	△	△	△	△	△		
3	暗褐色土層	2>3	○	△	△	△	△	△	○	
4	暗褐色土層	2>4	○	△	※	※	※			
5	にぶい黄橙色土層		○	○	※	※	◎	◎		
6	黒褐色土層		○	△	※	※	※	※		

Y-1住　炉

層	層名	色調	しまり	粘性	混入物					
					WP	YP	RP	RB	焼土	炭化物
1	黒褐色土層		△	△	※		※	※	△	
2	赤褐色土層		△	△	※	※	△	△	○	△

第６図　Y-1号住居址実測図



Y-2住

層	層名	色調	しまり	粘性	混入物			
					WP	YP	RP	RB
1	黒褐色土層		○	△	△	※		
2	褐灰色土層		○	△	△	△	※	△
3	褐灰色土層		○	△	△	○	△	※
4	黒褐色土層		△	△	※	※	※	△
5	にぶい黄褐色土層		○	○			◎	◎
6	褐灰色土層		△	△			△	△

Y-2住　炉1　炉2

層	層名	色調	しまり	粘性	混入物					
					WP	YP	RP	RB	焼土	炭化物
1	黒褐色土層		△	△	※	※	△	△	△	△

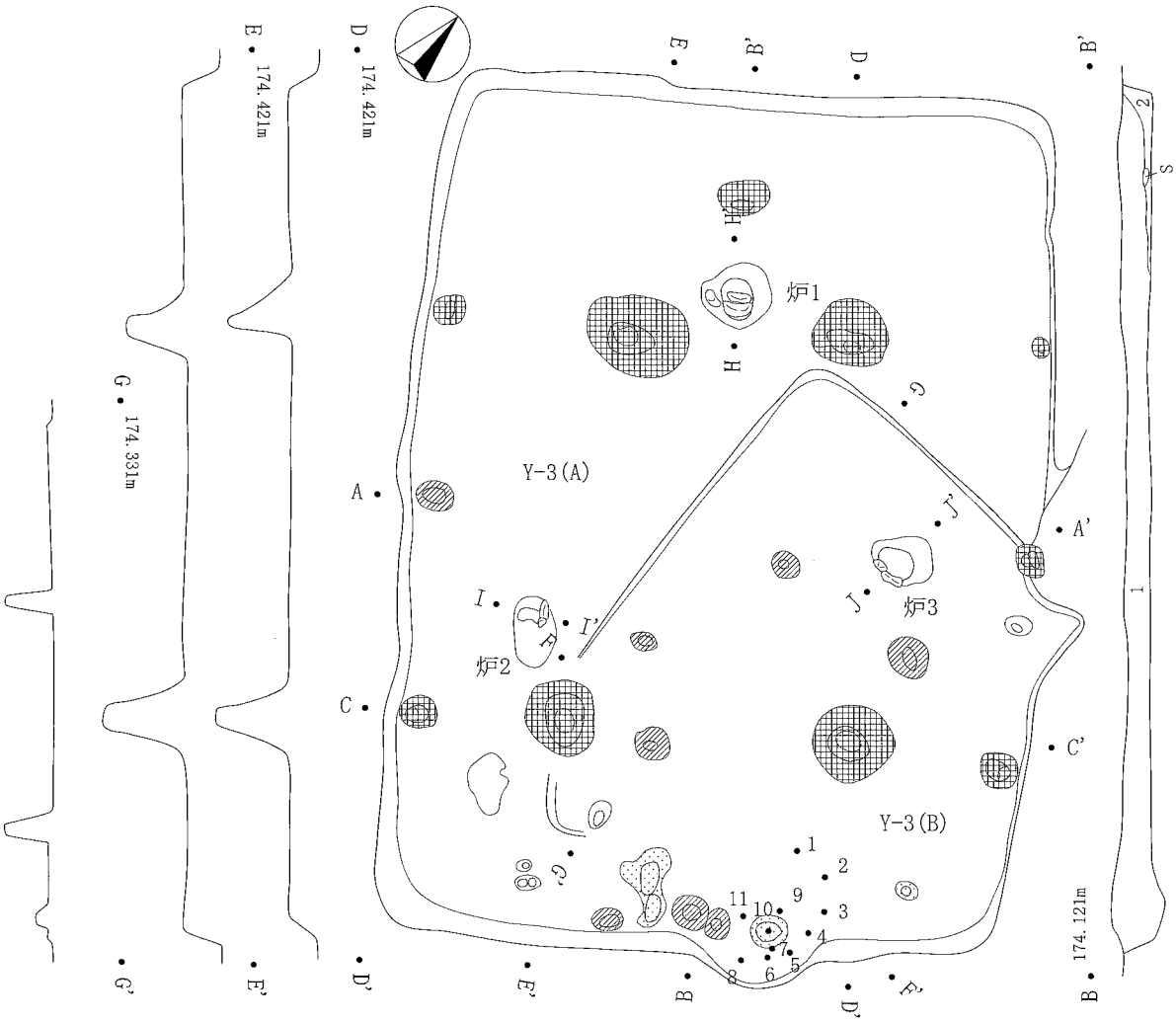
Y-2住　炉3

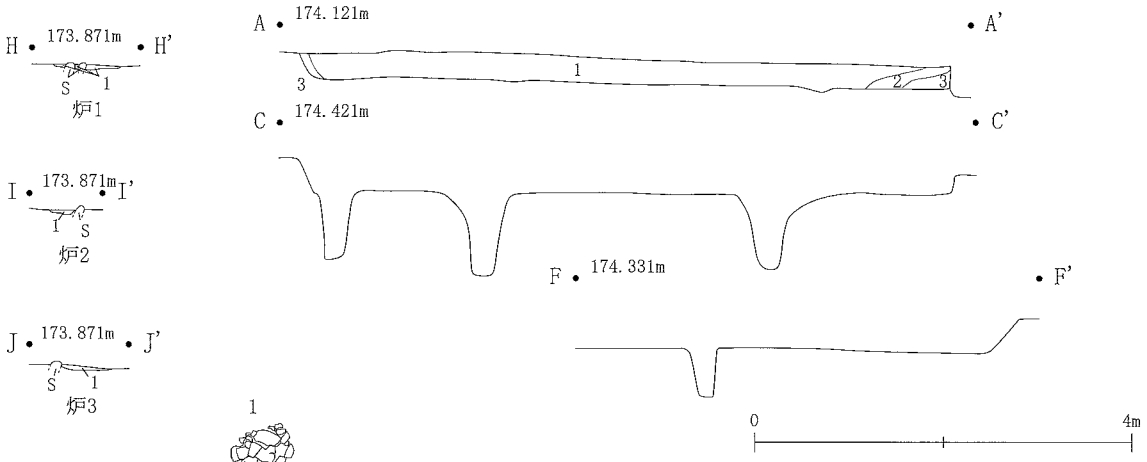
層	層名	色調	しまり	粘性	混入物				
					WP	YP	RP	RB	焼土
1	褐灰色土層		△	△		※	△		※
2	灰黄褐色土層		○	○	※	※	◎	○	△

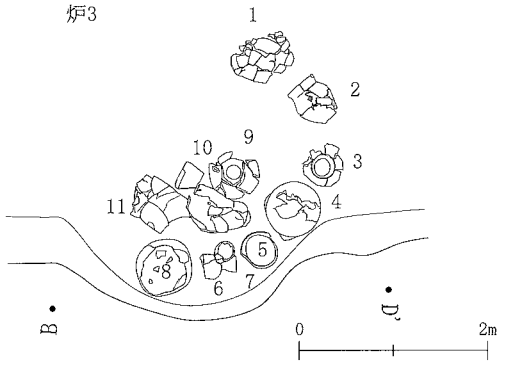
Y-2住　炉4

層	層名	色調	しまり	粘性	混入物				
					WP	YP	RP	RB	焼土
1	灰黄褐色土層		○	○	※	※	○	○	※
2	褐灰色土層		△	○		※	○	○	

第７図　Y-2（A)･(B）号住居址実測図







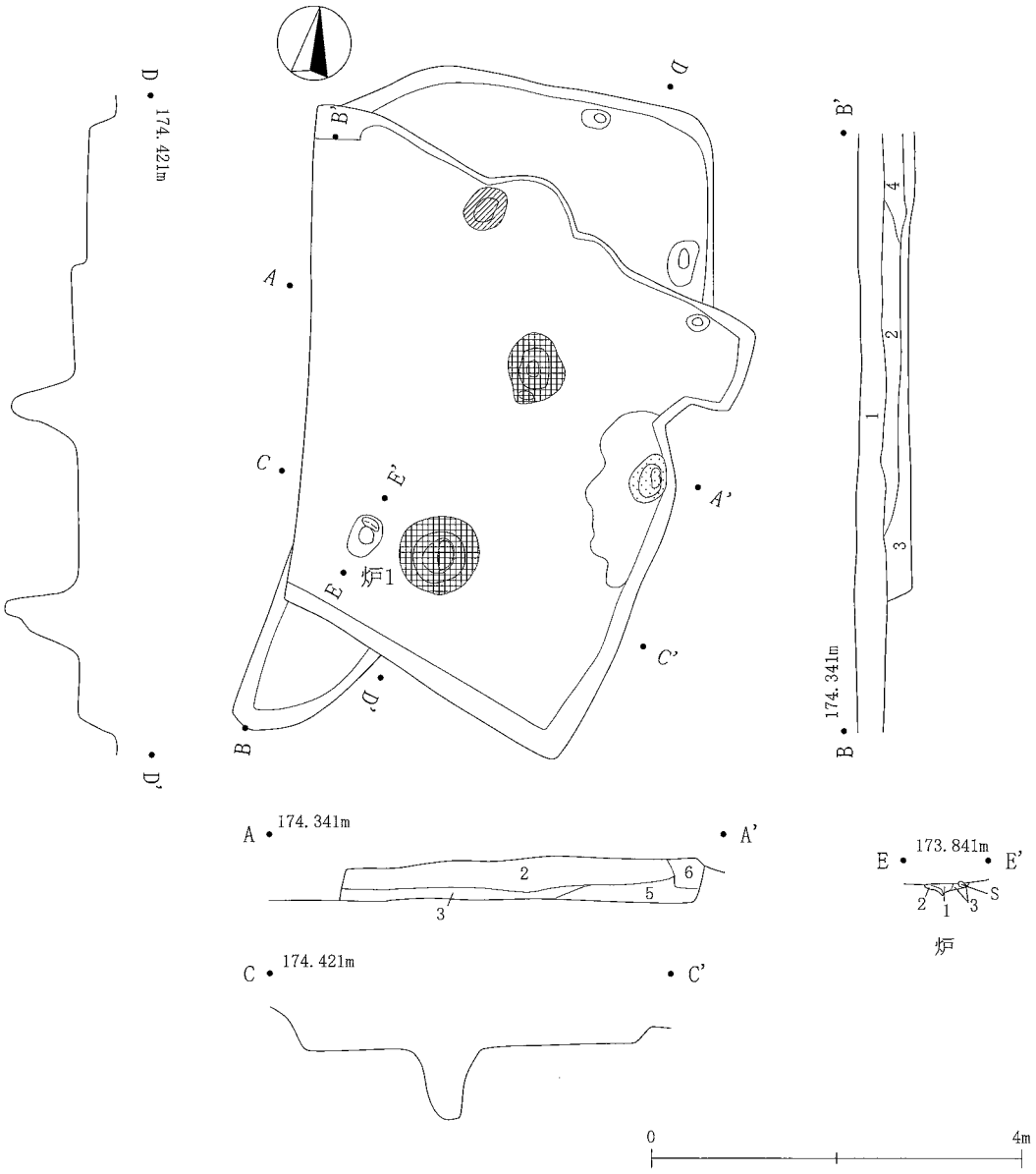
Y-3住

層	層名	色調	しまり	粘性	混入物			
					WP	YP	RP	RB
1	灰黄褐色土層		○	△	△	△	△	※
2	にぶい黄褐色土層		○	△	※	※	○	○
3	にぶい黄褐色土層		○	△	※	※	※	※

Y-3住　炉1　炉2　炉3

層	層名	色調	しまり	粘性	混入物				
					WP	YP	RP	RB	焼土
1	褐灰色土層		△	△	※	※	△	△	△

第８図　Y-3（A)・(B）号住居址実測図



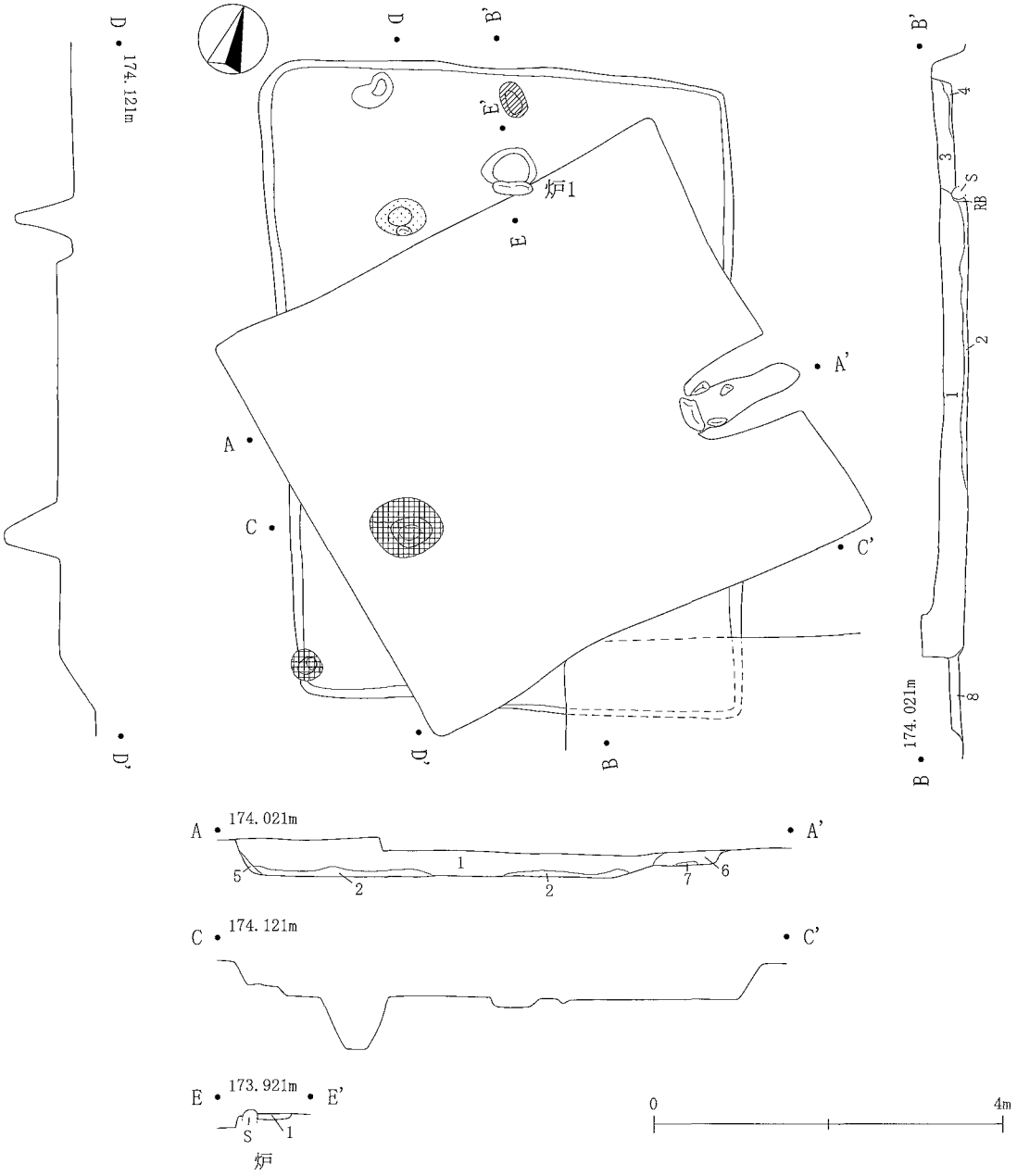
Y-5住　Y-5住

層	層名	色調	しまり	粘性	混入物						備考
					WP	YP	RP	RB	焼土	炭化物	
1	黒褐色土層		○	△	※	※	△	△			
2	暗褐色土層		○	△	△	△	△	△		※	
3	灰黄褐色土層		○	○	△	△	○	○		※	
4	暗褐色土層	2<4	○	○	△	○	△	△			
5	灰黄褐色土層	3<5	○	○	△	△	○	○			
6	褐色土層		○	○	△	△	○	○	△	△	H-1住の北カマドのソデの一部

Y-5住　炉

層	層名	色調	しまり	粘性	混入物					
					WP	YP	RP	RB	焼土	炭化物
1	灰黄褐色土層		○	△	※	※	△	△	※	※
2	にぶい黄橙色土層		○	○			○	○	○	
3	にぶい黄褐色土層		○	○	※	※	○	○	△	

第９図　Y-5号住居址実測図



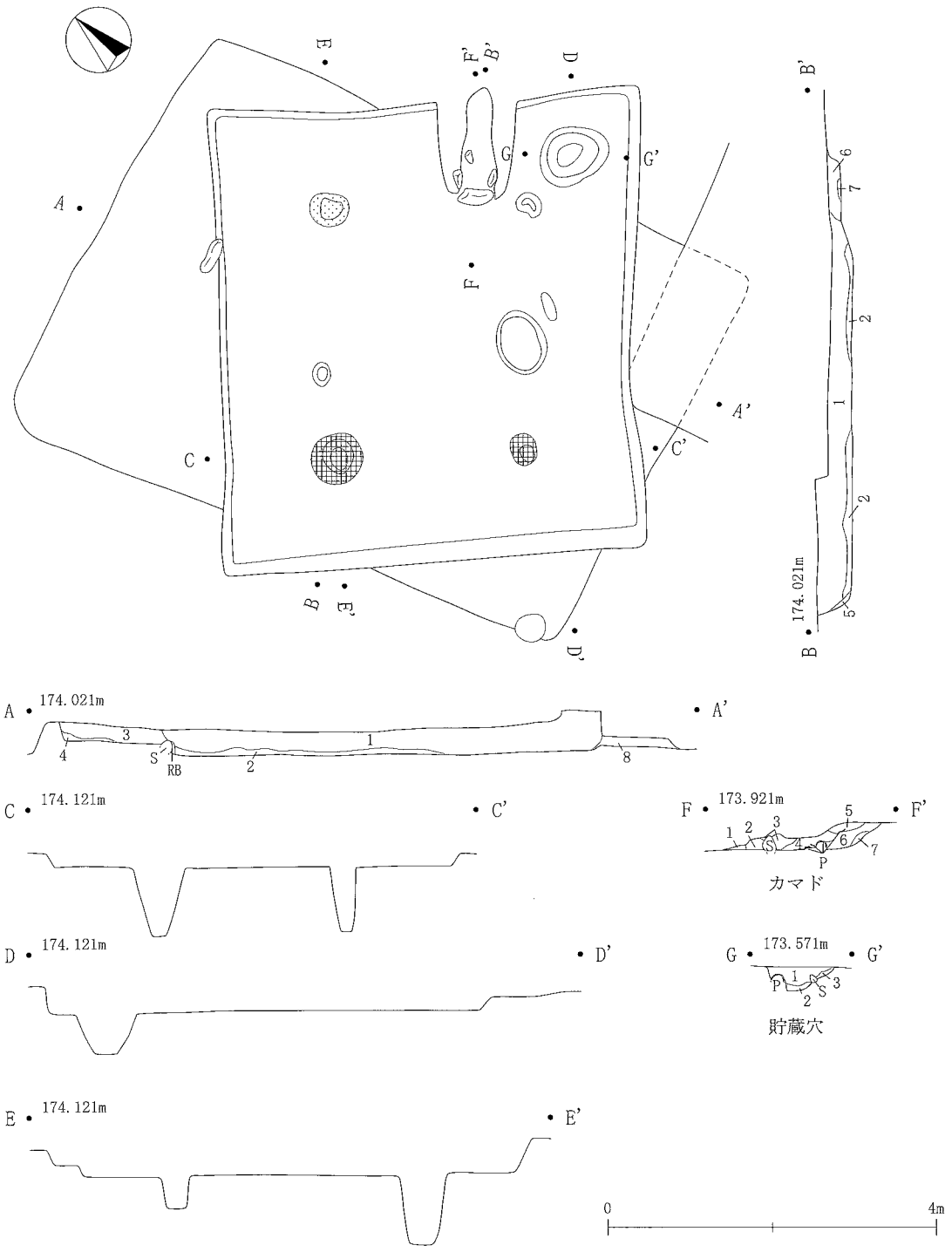
YH-1住

層	層名	色調	しまり	粘性	混入物				
					WP	YP	RP	RB	焼土
1	褐灰色土層		○	△	△	○	△	△	
2	黒褐色土層		○	○	※	△	○	○	
3	褐灰色土層		△	△	△	△	△		
4	黒褐色土層		○	○	※	※	△		
5	灰黄褐色土層		○	○	※	※	○	○	
6	暗褐色土層		○	△	△	△	△	△	△
7	赤褐色土層		△	△			△	△	◎
8	にぶい黄褐色土層		○	△	※	△	△	△	

YH-1住　炉

層	層名	色調	しまり	粘性	混入物					
					WP	YP	RP	RB	焼土	炭化物
1	黒褐色土層		△	△	※	※	△	△	○	△

第10図　YH-1（Y住）号住居址実測図



YH-1住

層	層名	色調	しまり	粘性	混入物				
					WP	YP	RP	RB	焼土
1	褐灰色土層		○	△	△	○	△	△	
2	黒褐色土層		○	○	※	△	○	○	
3	褐灰色土層		△	△	△	△	△		
4	黒褐色土層		○	○	※	※	△		
5	灰黄褐色土層		○	○	※	※	○	○	
6	暗褐色土層		○	△	△	△	△	△	△
7	赤褐色土層		△	△			△	△	◎
8	にぶい黄褐色土層		○	△	※	△	△	△	

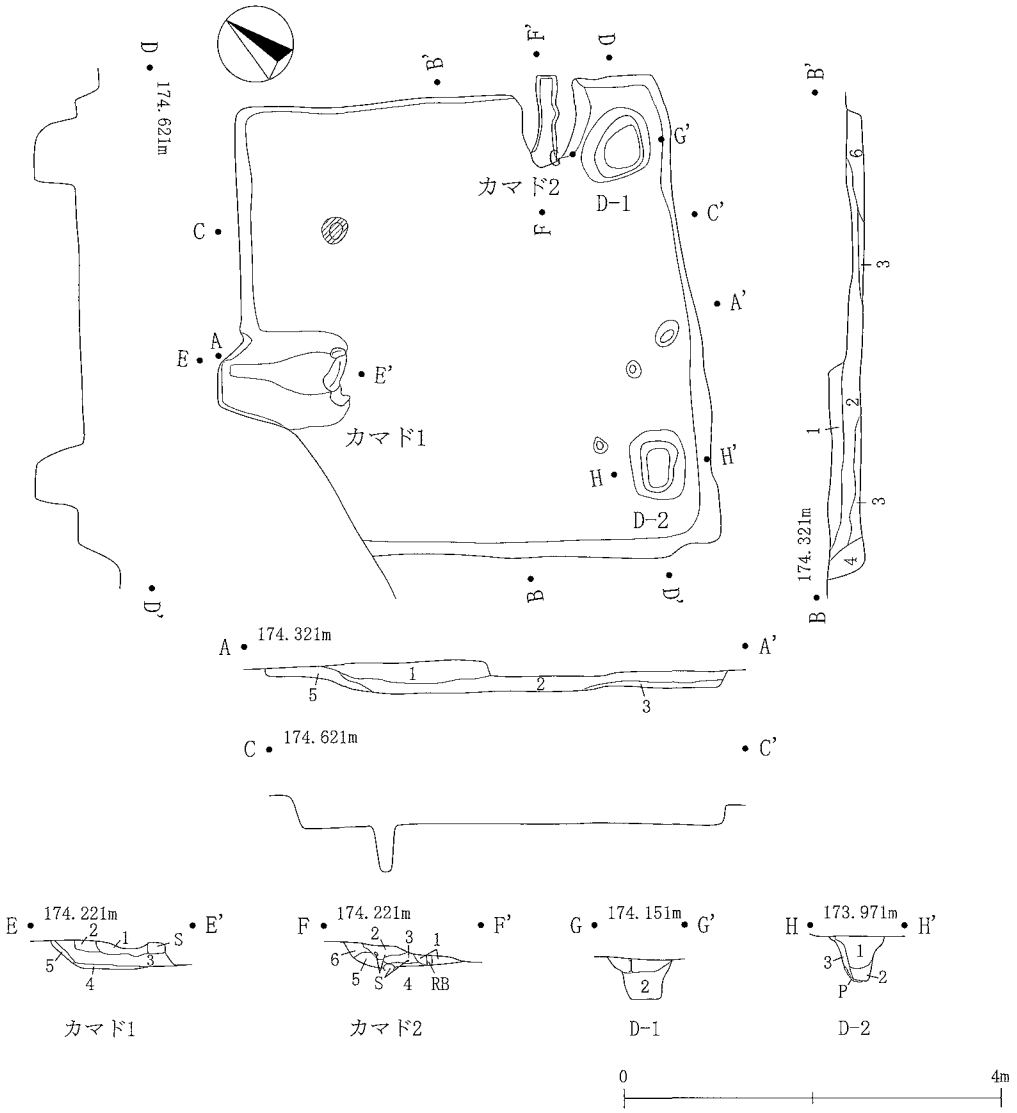
YH-1住　カマド

層	層名	色調	しまり	粘性	混入物					
					WP	YP	RP	RB	焼土	炭化物
1	黒褐色土層		△	△	※	※	△	△		
2	灰褐色土層		○	○	△	△	△	○		
3	黒褐色土層		○	△	△	△	○	△	※	
4	灰褐色土層		△	△	※	△	○	○	○	△
5	灰褐色土層		○	○	※	※	○	◎	△	
6	にぶい赤褐色土層		△	△	※	※	※	※	◎	△
7	赤褐色土層		○	△	※	※	○	○	○	

YH-1住　貯蔵穴

層	層名	色調	しまり	粘性	混入物				
					WP	YP	RP	RB	焼土
1	黒褐色土層		○	△	△	△	△	△	※
2	灰黄褐色土層		○	○	△	※	◎	◎	
3	灰黄褐色土層		○	◎			◎	◎	

第11図　YH-1（H住）号住居址実測図



H-1住

層	層名	色調	しまり	粘性	混入物					
					WP	YP	RP	RB	焼土	炭化物
1	暗褐色土層		○	△	△	※	※	※		
2	黒褐色土層		○	△	※	※	△	△		
3	灰黄褐色土層		○	△	※	※	○	○		
4	黒褐色土層	2<4	○	△	△	△	○	△		
5	暗褐色土層		○	△	※	※	○	○	△	
6	にぶい黄褐色土層		○	○	※	※	○	○	△	※

H-1住　カマド2

層	層名	色調	しまり	粘性	混入物					
					WP	YP	RP	RB	焼土	炭化物
1	暗赤褐色土層		△	△	△	※	△	△	△	
2	暗赤褐色土層		△	○	△	※	○	○	△	
3	にぶい赤褐色土層		△	△	※	※	△	△	○	△
4	灰褐色土層		△	○	※	※	◎	◎	△	
5	褐灰色土層		○	○	※	※	○	○		

H-1住　カマド1

層	層名	色調	しまり	粘性	混入物				
					WP	YP	RP	RB	焼土
1	褐灰色土層		○	△	※	※	△	△	※
2	赤褐色土層		△	△			△	△	◎
3	黒褐色土層		△	△	※	※	△	△	△
4	灰褐色土層		△	○	※	※	○	○	△
5	暗赤褐色土層		△	△	※	※	※	※	○
6	黒褐色土層		△	△	△	△	※	△	△

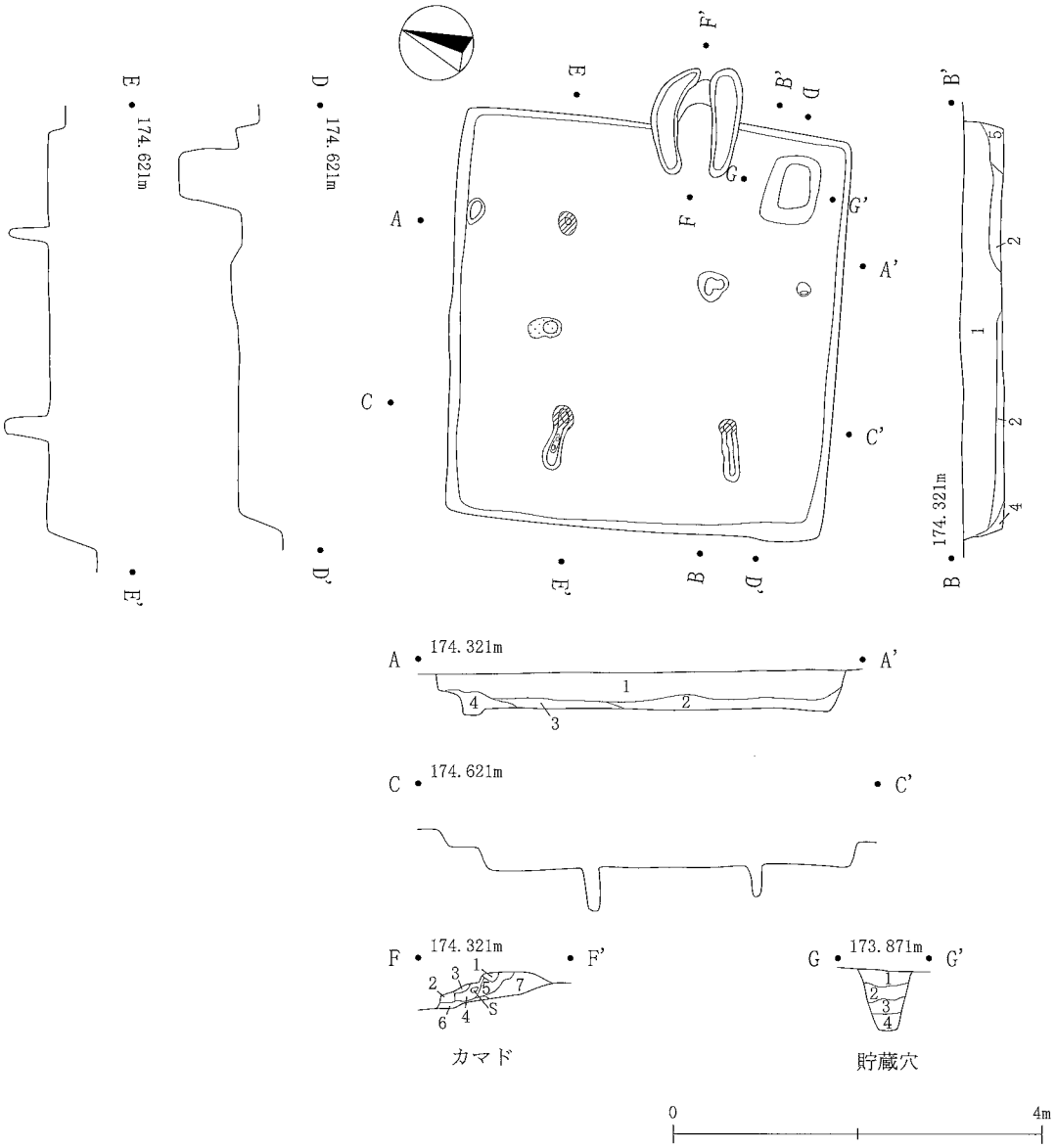
H-1住　D-1

層	層名	色調	しまり	粘性	混入物				
					WP	YP	RP	RB	炭化物
1	黒褐色土層		○	△	※	※	※	△	※
2	黒褐色土層	1<2	○	○	※	※	△	○	△
3	にぶい黄褐色土層		○	○	※	※	○	◎	

H-1住　D-2

層	層名	色調	しまり	粘性	混入物			
					WP	YP	RP	RB
1	暗褐色土層		○	△	※	△	△	△
2	にぶい黄褐色土層		○	○	△	△	○	◎

第12図　H-1号住居址実測図



H-2住

層	層名	色調	しまり	粘性	混入物					
					WP	YP	RP	RB	焼土	炭化物
1	黒褐色土層		○	△	○	○	○	△		△
2	黒褐色土層	1>2	○	△	△	△	△	△		△
3	黒褐色土層		○	△	※	※	※	△		
4	黒褐色土層	3<4	○	△	※	△	△	△		
5	暗褐色土層		○	△	△	△	△	△	○	△

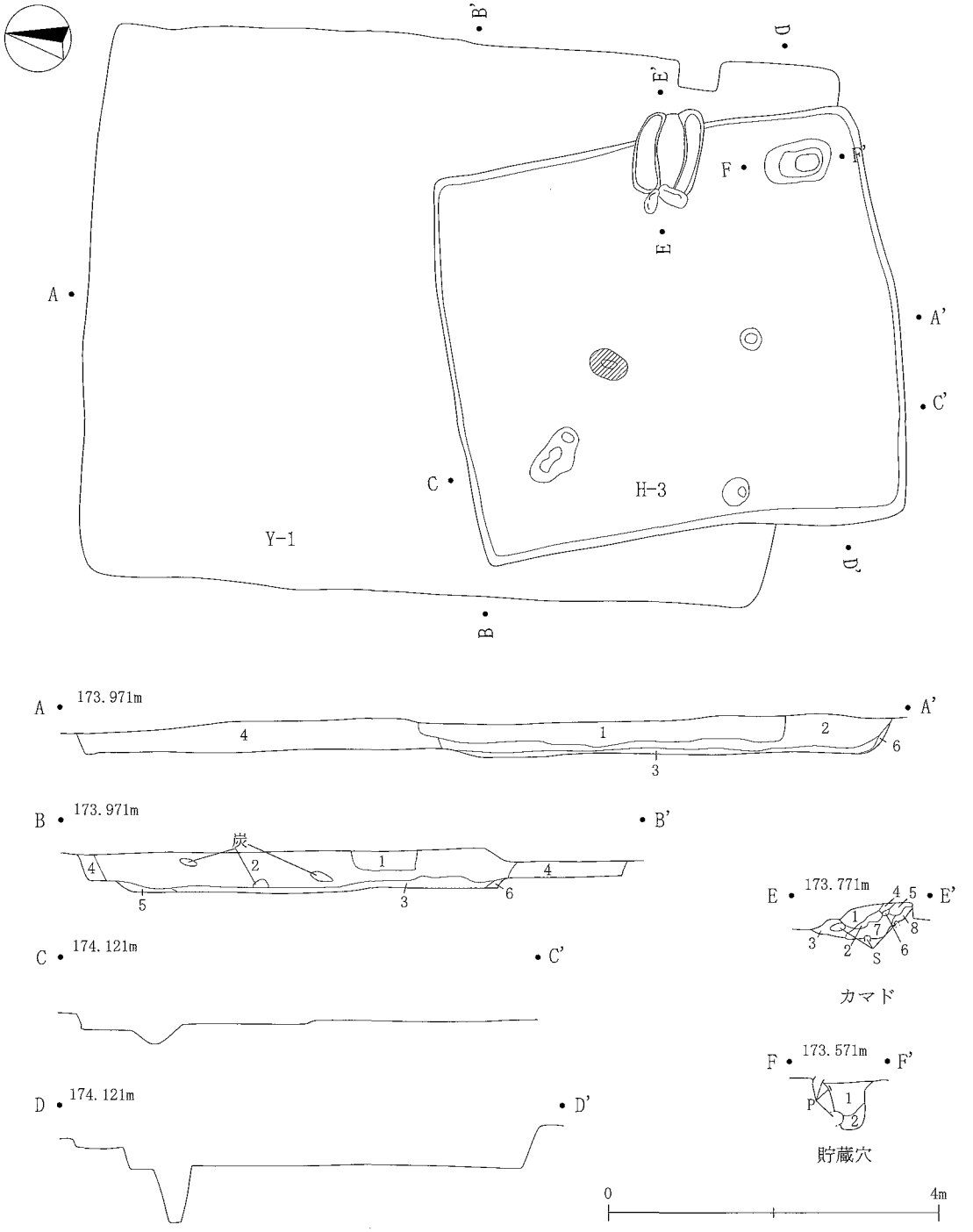
H-2住　カマド

層	層名	色調	しまり	粘性	混入物						
					WP	YP	RP	RB	焼土	炭化物	白色粘土
1	にぶい赤褐色土層		○	△	△	※	○	○	○		
2	灰褐色土層		○	○	※	※	○	○	△		◎(ブロック状に混入)
3	にぶい赤褐色土層		○	△	※	※	△	△	△		
4	にぶい赤褐色土層		○	△	※	※	○	○	○	△	△
5	にぶい赤褐色土層	4<5	○	△	△	△	○	○	○	△	
6	赤褐色土層		△	△	※	※	△	△	◎	△	
7	黒褐色土層		○	△	△	△	△	△	△	△	

H-2住　貯蔵穴

層	層名	色調	しまり	粘性	混入物					
					WP	YP	RP	RB	焼土	炭化物
1	褐灰色土層		○	△	※	△	○	○	※	※
2	褐灰色土層	1>2	○	△	※	△	○	○	△	※
3	黒褐色土層		○	△	※	※	※	△		
4	黒褐色土層	3<4	○	○	※	※	○	○		

第13図　H-2号住居址実測図



H-3住

層	層名	色調	しまり	粘性	混入物					備考
					WP	YP	RP	RB	炭化物	
1	黒褐色土層		△	△	○	△				As-A混入多
2	暗褐色土層		○	△	△	△	△	△		
3	暗褐色土層	2>3	○	△	△	△	△	△	○	
4	暗褐色土層	2>4	○	△	※	※	※			
5	にぶい黄橙色土層		○	○	※	※	◎	◎		
6	黒褐色土層		○	△	※	※	※	※		

H-3住　貯蔵穴

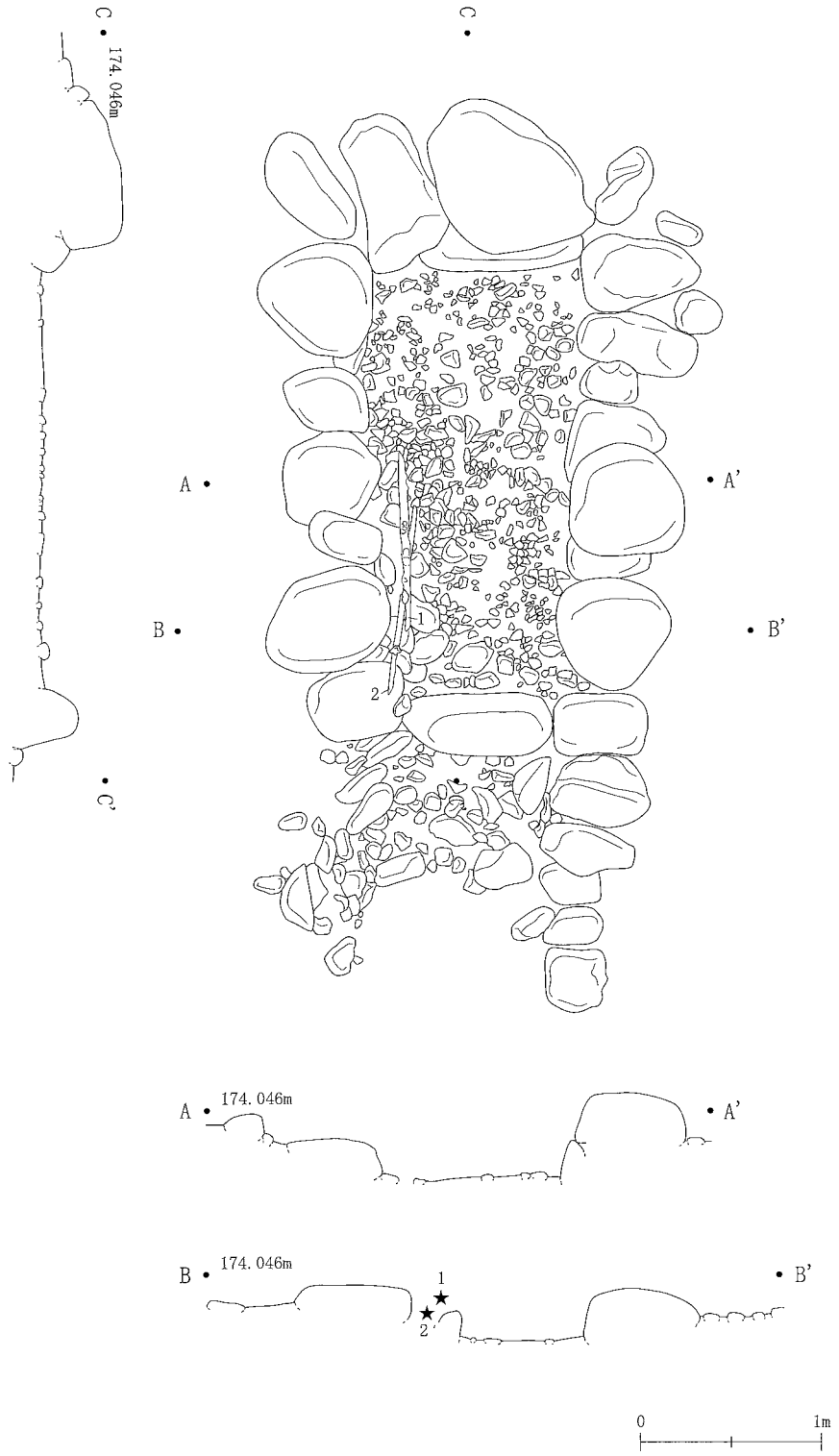
層	層名	色調	しまり	粘性	混入物				
					WP	YP	RP	RB	炭化物
1	褐灰色土層		○	△	※	※	△	△	△
2	灰黄褐色土層		○	○	※	※	○	○	△

H-3住　カマド

層	層名	色調	しまり	粘性	混入物				
					WP	YP	RP	RB	粘土
1	褐灰色土層		○	△	△	△	△	△	△
2	暗赤褐色土層		△	△	※	※	△	△	△
3	褐灰色土層		○	△	※	※	△		
4	灰褐色土層		○	○	※	※	◎	◎	○
5	にぶい赤褐色土層		○	○	※		◎	◎	◎
6	暗赤褐色土層	2<6	△	△	※	※	△	△	△
7	にぶい赤褐色土層		△	△	※	△	△	△	◎
8	灰褐色土層		○	○	※	※			○

第14図　H-3号住居址実測図

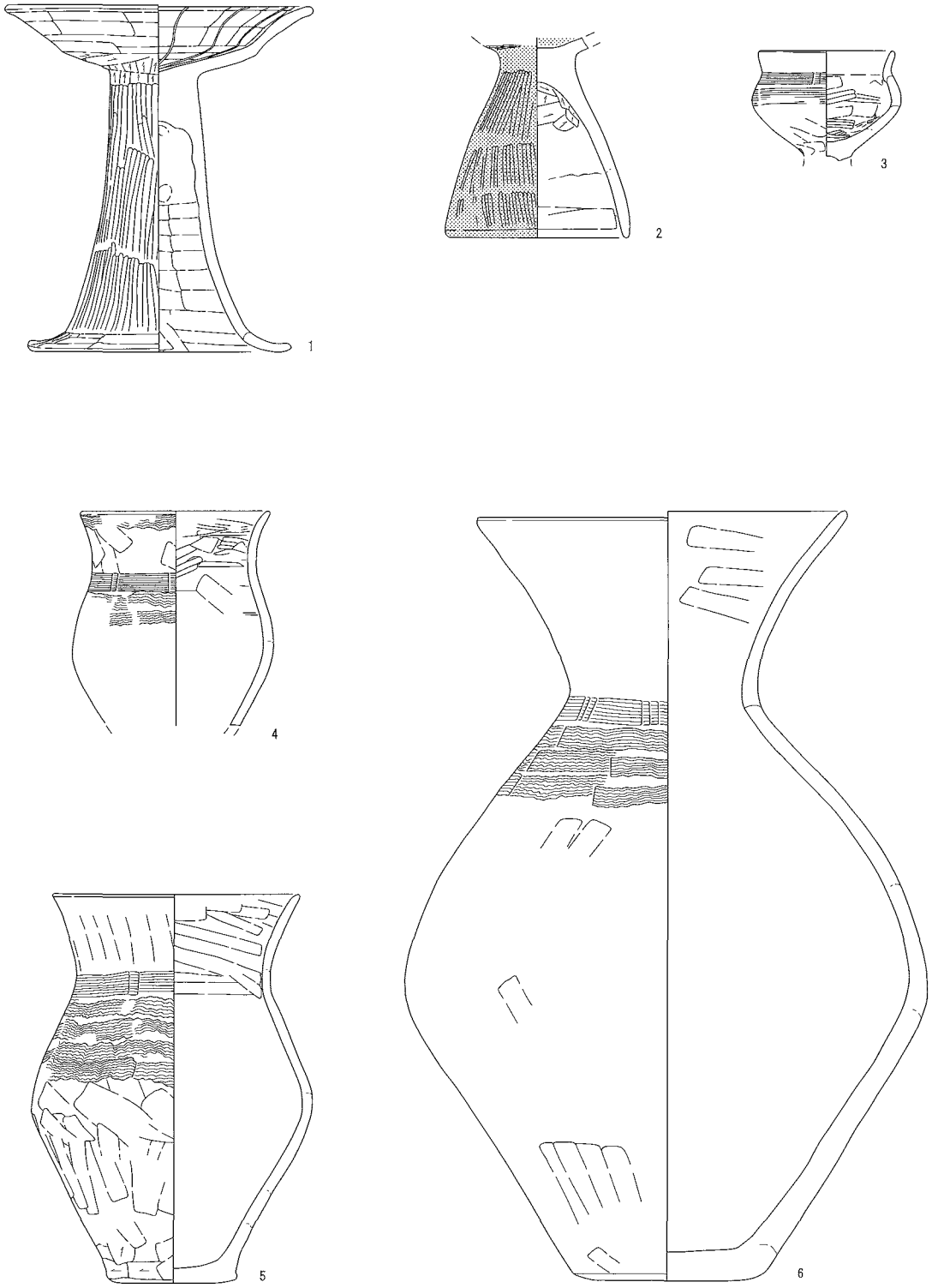
第15図　K-1号墳実測図



第16図　K-1号墳石室実測図

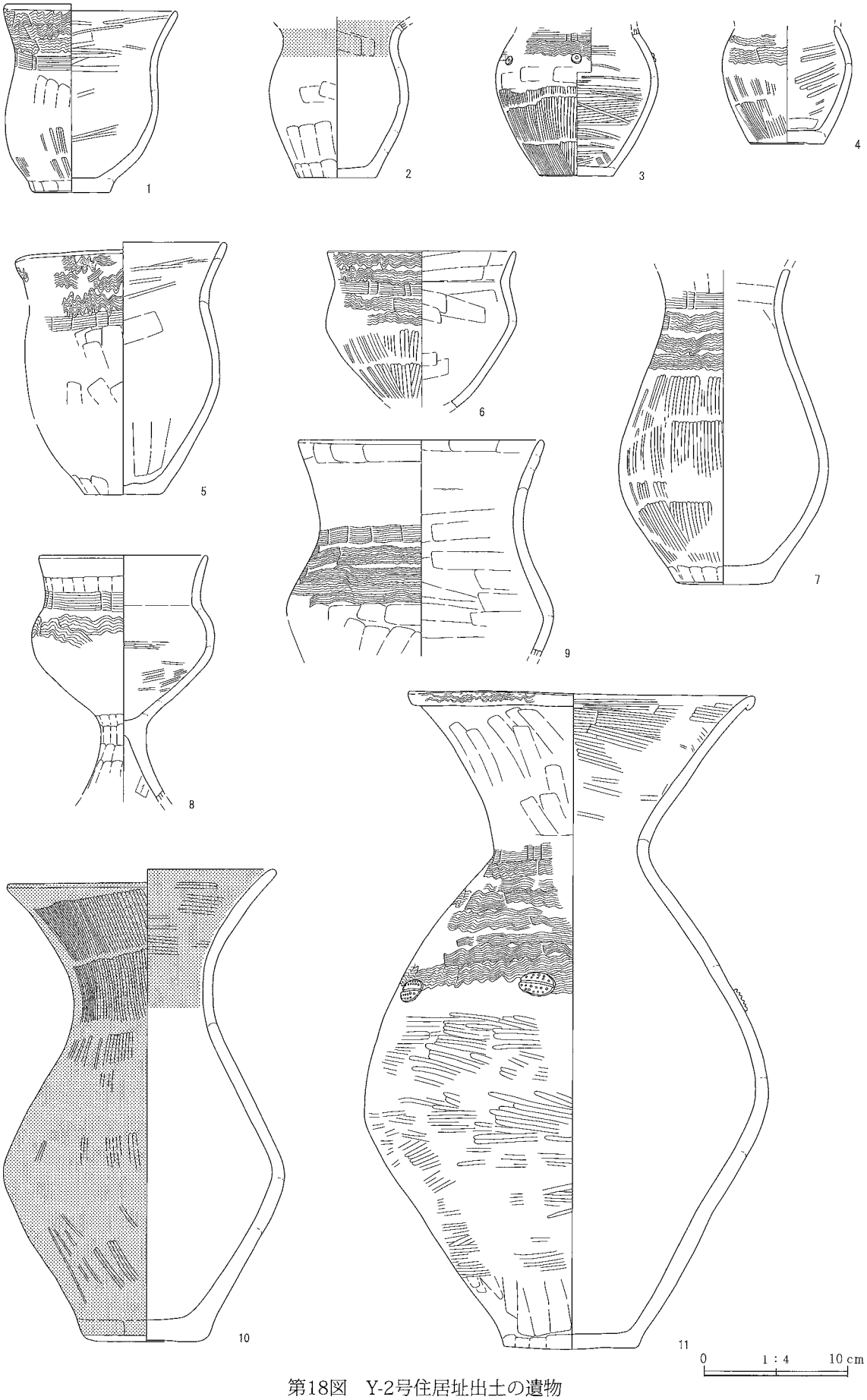
第1表　住居址観察表

遺構名	平面形態	規模				主軸方向	主柱穴	炉・竈位置	炉・竈規模		貯蔵穴規模		土坑規模	
		長軸m	短軸m	深さ最大cm	深さ最小cm				長軸cm	短軸cm	長軸cm	短軸cm	長軸cm	短軸cm
Y-1（Y住）	縦長方形	8.56	6.40	36	16	N-6°-W	2	北側主柱穴間	56	48				
Y-1（H住）	正方形	5.28	4.80	45	16	N-72°-E	-	北壁中央			80	48		
Y-2（A住）	縦長方形	9.12	5.92	55	32	N-18° -W	4	炉1/北側主柱穴間	56	48				
								炉2/北西主柱穴横	40	40				
								炉3/南西主柱穴横	56	48				
Y-2（B住）	縦長方形	-6.08	-4.40	56	9	N-40°-W	1	西主柱穴横	72	64				
Y-3（A住）	縦長方形	9.04	6.72	46	22	N-40°-W	4	炉1/北西側主柱穴間	72	64				
								炉2/南主柱穴横	72	40				
Y-3（B住）	縦長方形	4.00	-4.00	21	4	N-3°-W	4	北側主柱穴間	64	64				
Y-4	正方形	4.48	4.24	45	17	N-73°-E	3	東壁南寄り			80	56		
Y-5	縦長方形	-5.20	4.80	51	15	N-69°-W	2	南主柱穴横	48	32				
YH-1（Y住）	縦長方形	7.04	5.12	32	14	N-19°-W	1	北西主柱穴横	56	56				
YH-1（H住）	正方形	5.36	4.96	44	13	N-41°-E	4	北東壁東寄り			88	64		
H-1	正方形	4.80	4.64	40	19	A/N-48°-E	-	A/北東壁東寄り			72	72	72	56
						B/N-40°-W		B/北西壁西寄り						
K-1		11.60	10.40			N-1°-E								
K-1（石室）		2.32	1.16											
			0.92											

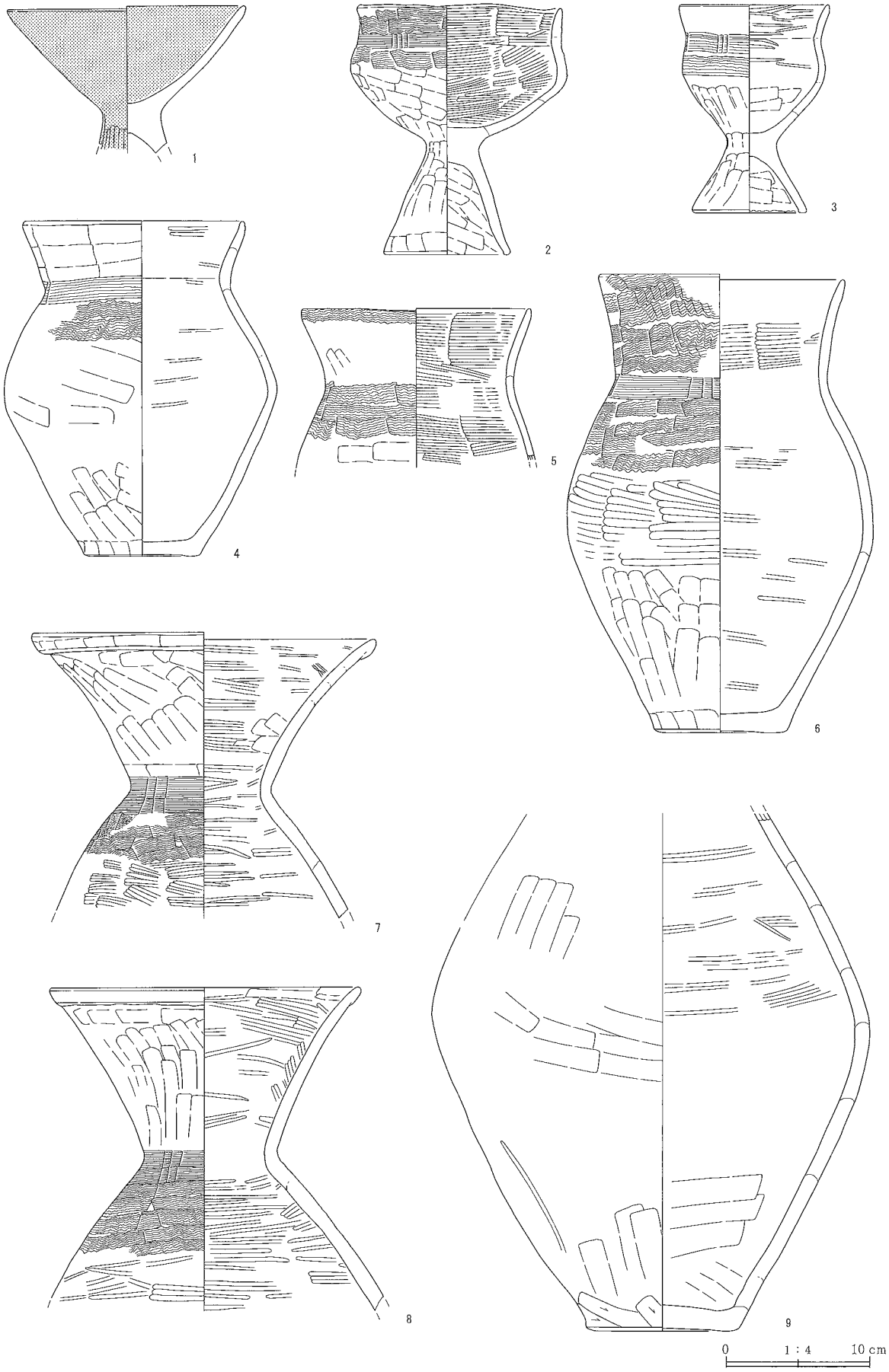


0　1：4　10 cm

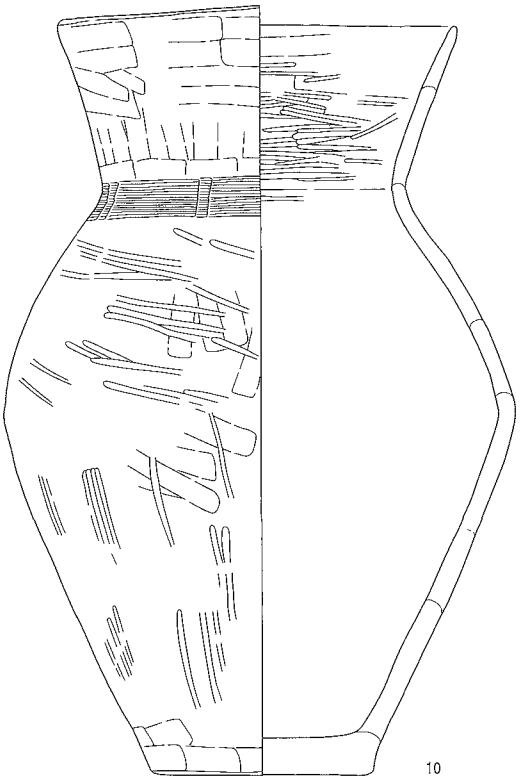
第17図　Y-1号住居址出土の遺物

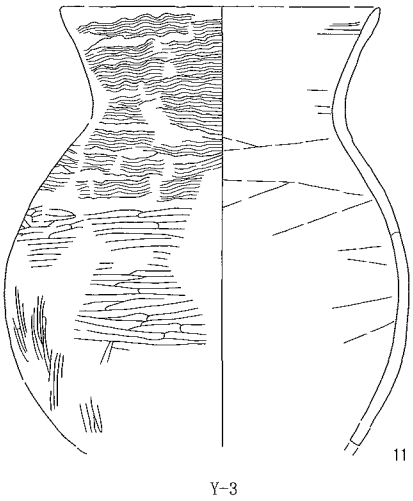


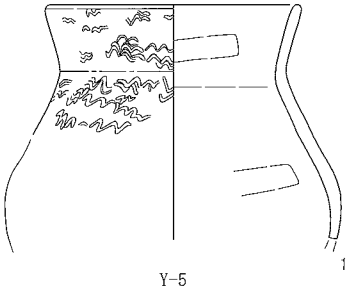
第18図　Y-2号住居址出土の遺物

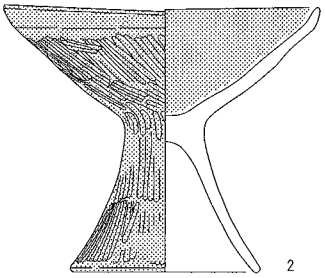


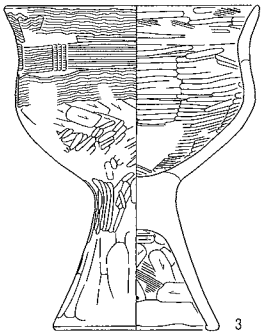
第19図　Y-3号住居址出土の遺物

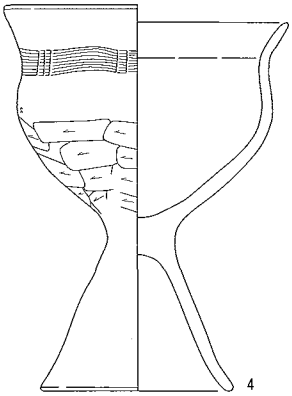


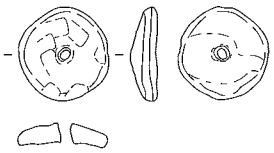






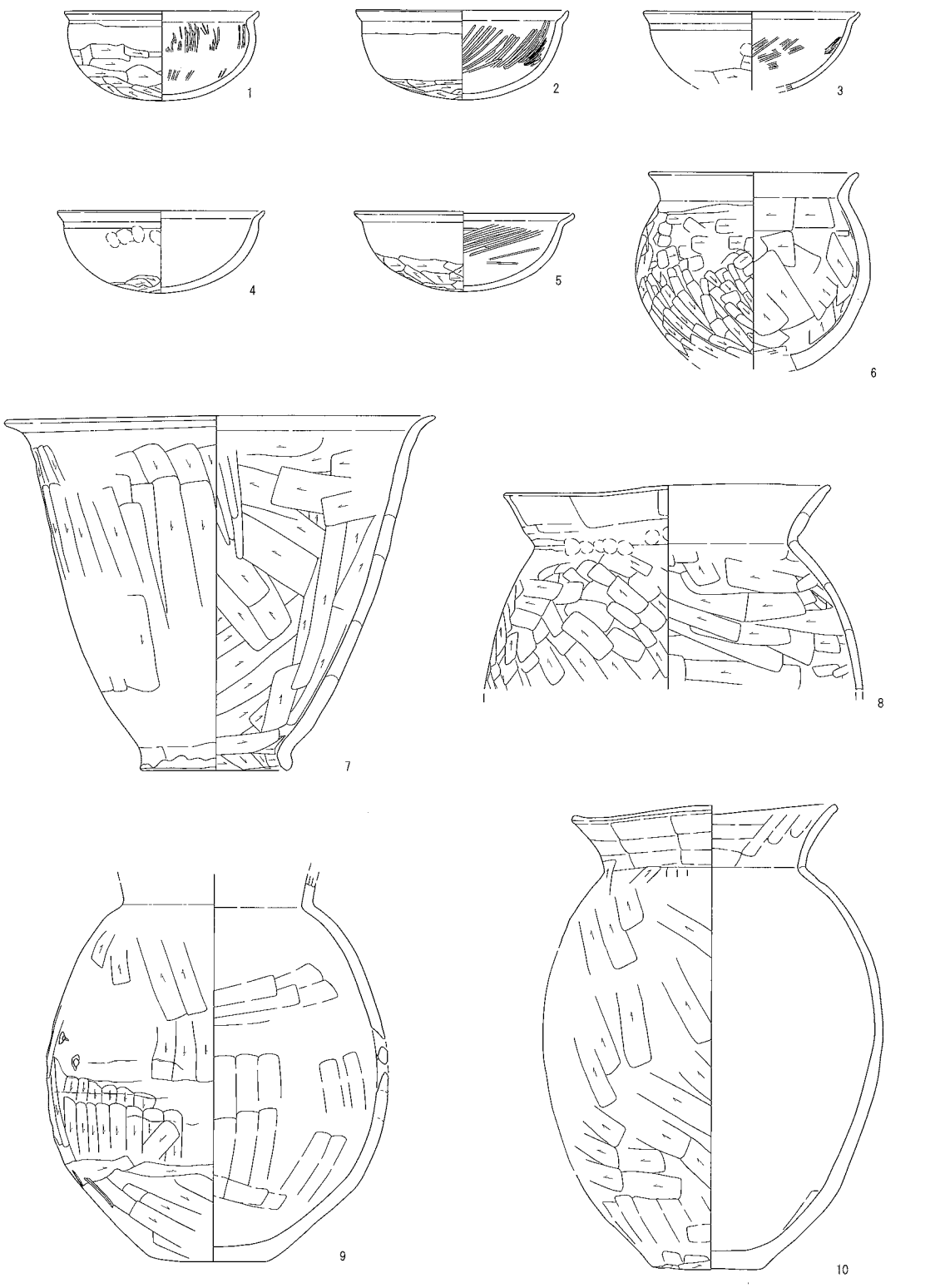




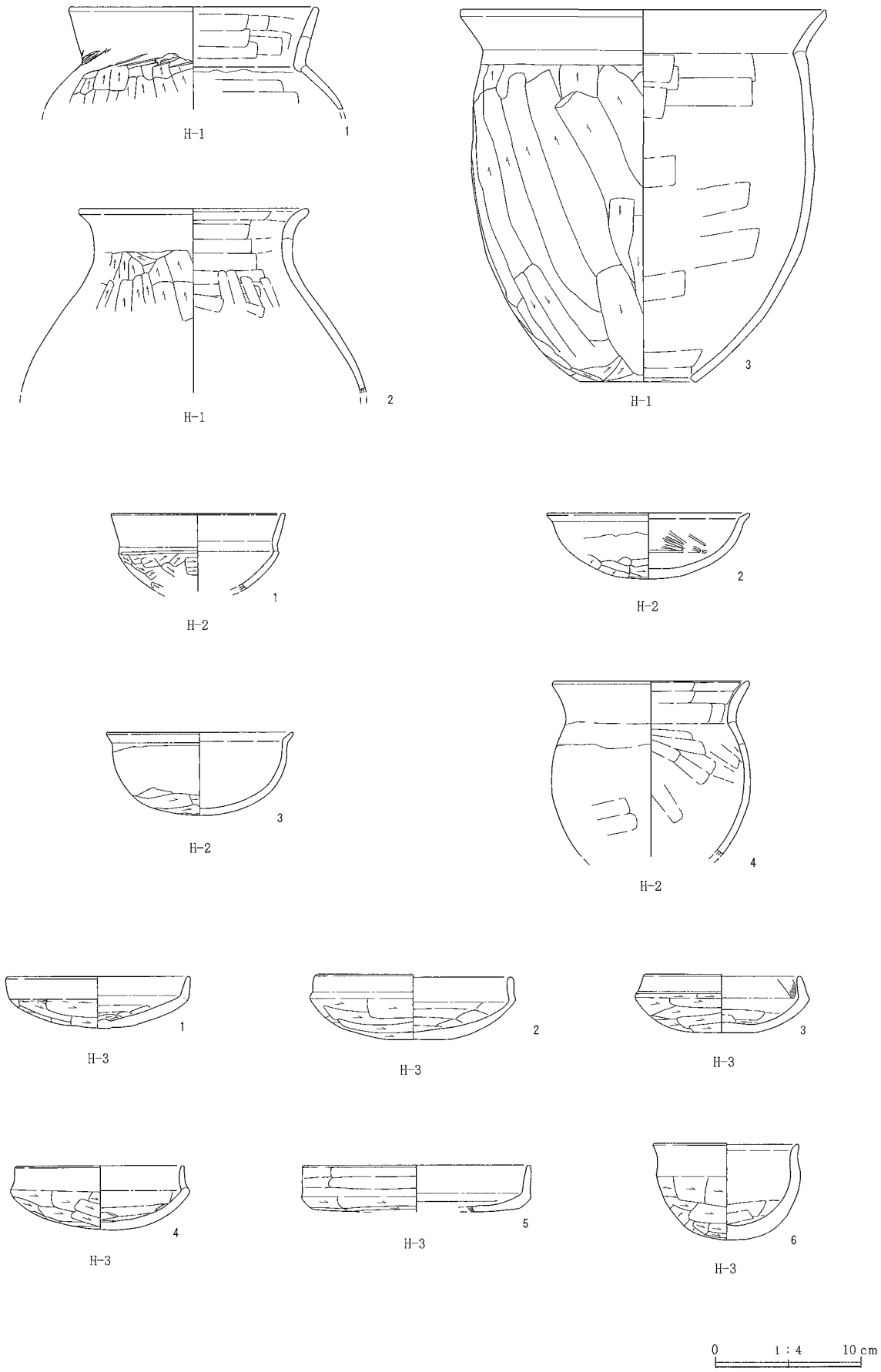


0　1：4　10 cm

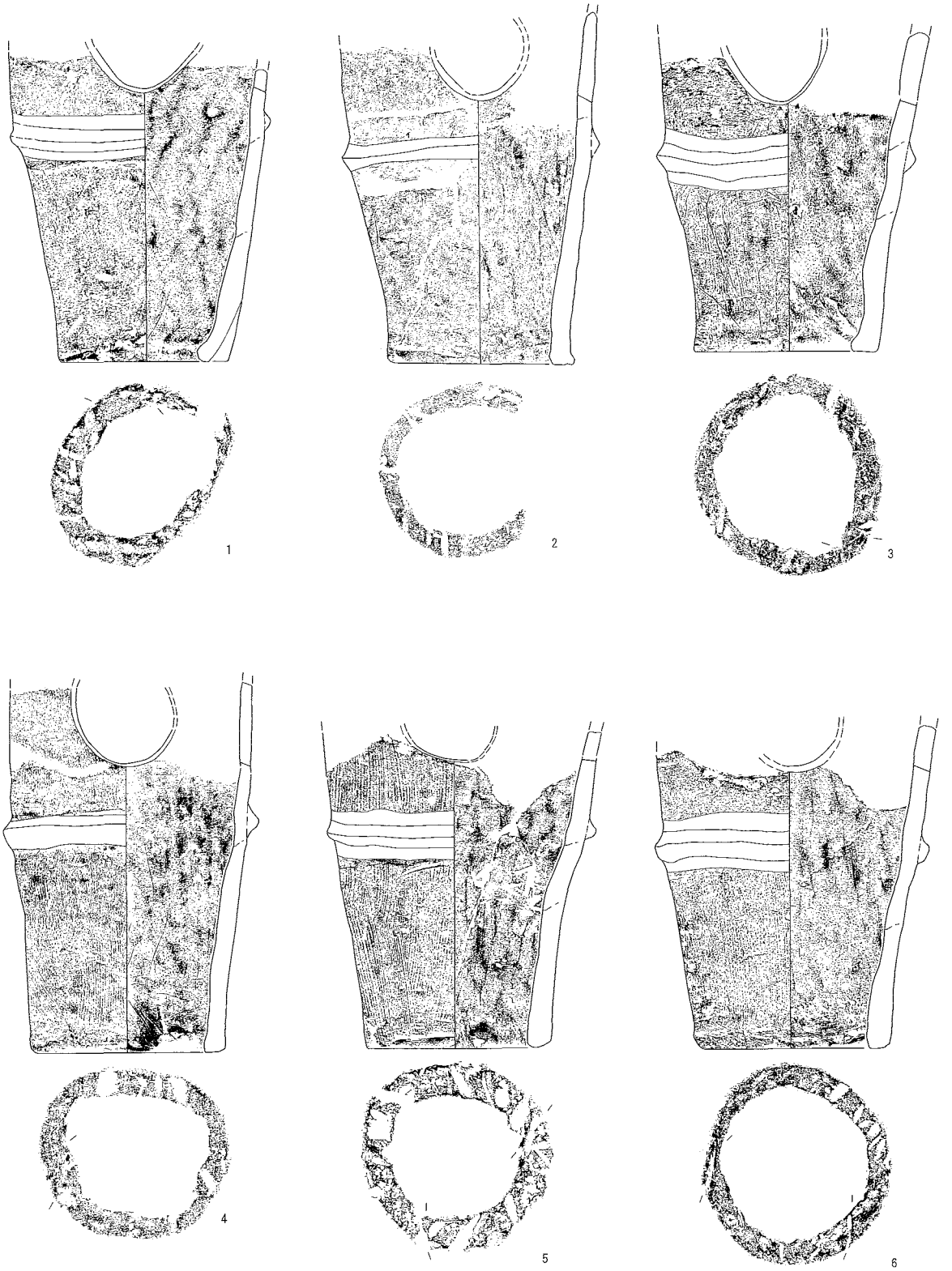
第20図　Y-3号・Y-5号住居址出土の遺物



第21図　YH-1号住居址出土の遺物

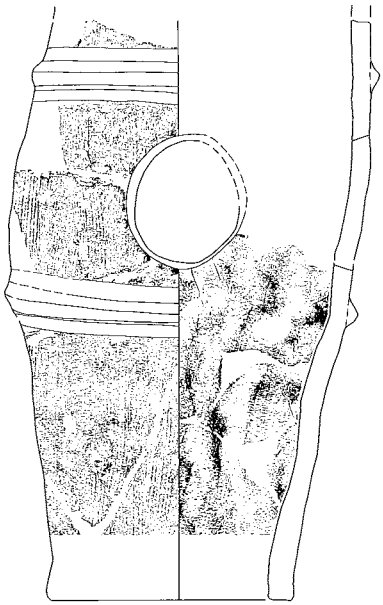


第22図　H-1号・H-2号・H-3号住居址出土の遺物



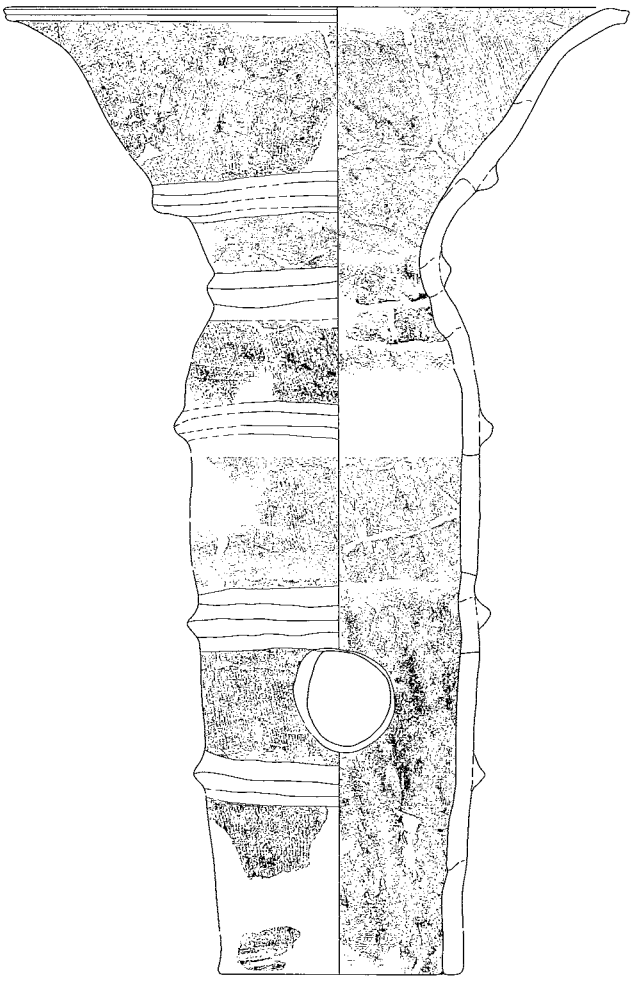
第23図　K-1号墳　埴輪1

第24図　K-1号墳　埴輪2



13

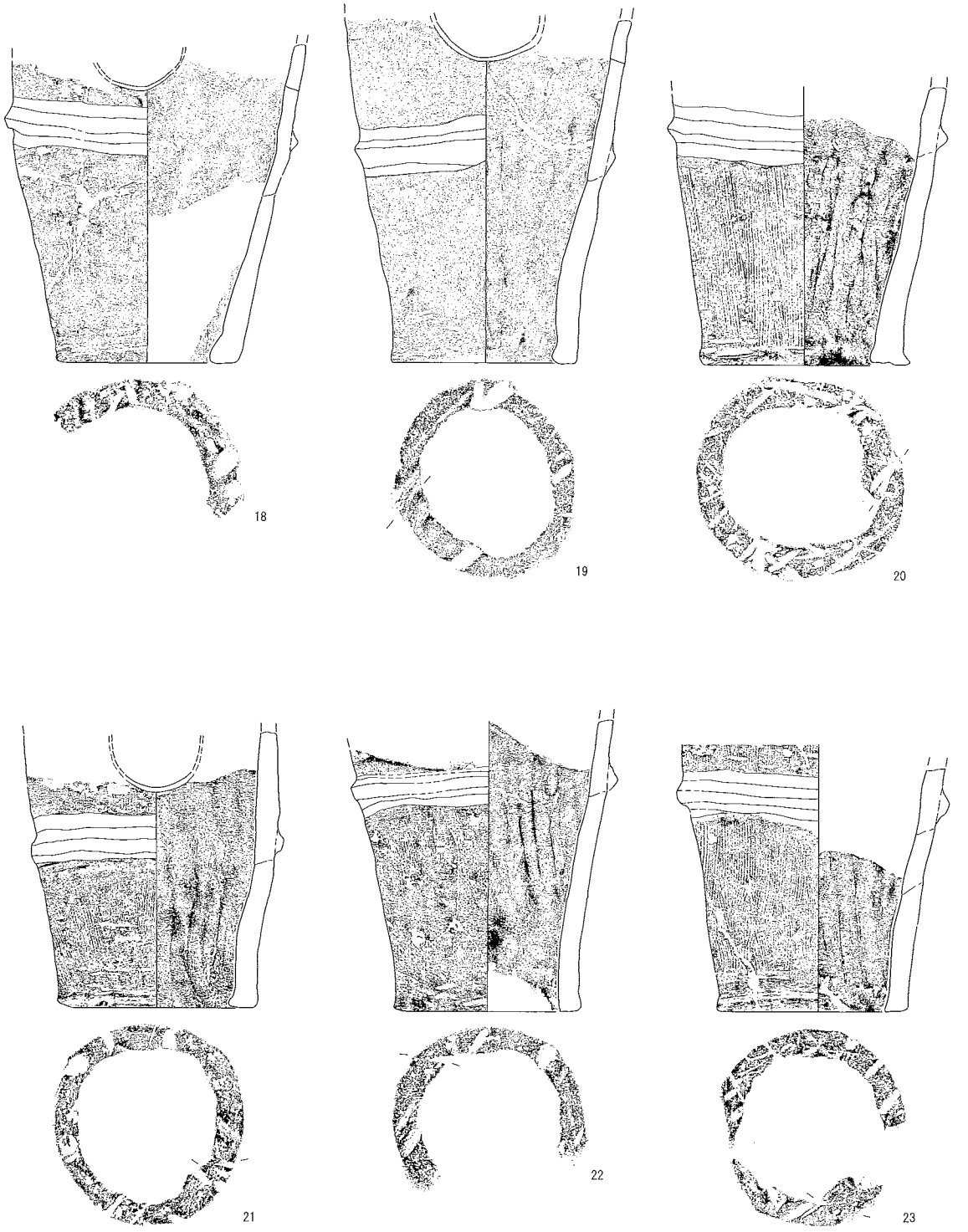
14



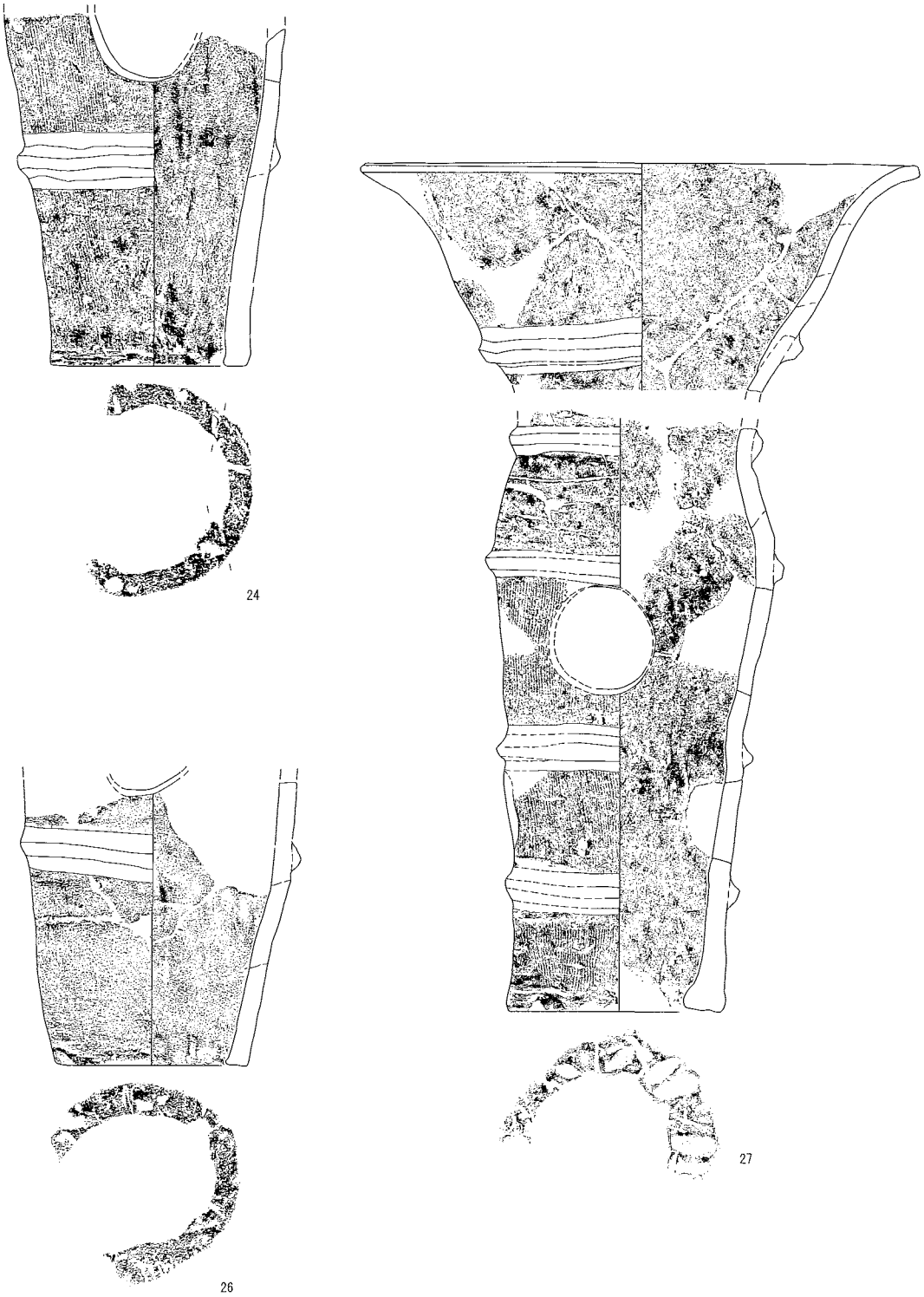
16

0　1：4　10cm

第25図　K-1号墳　埴輪3

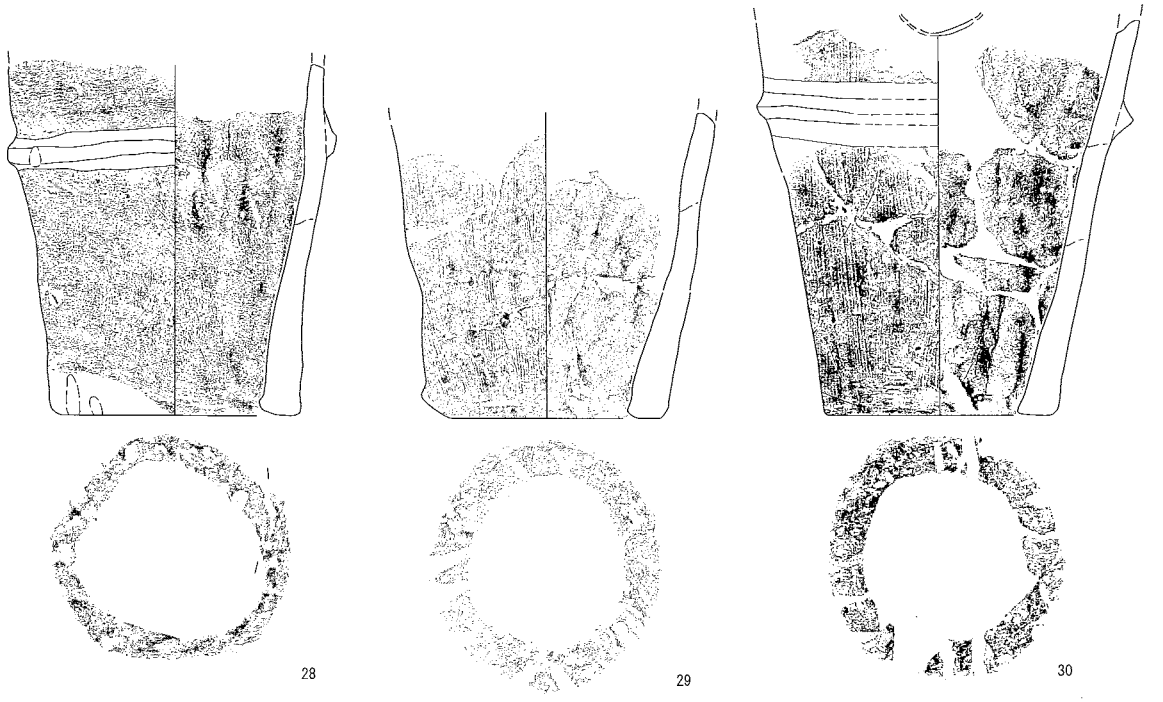


第26図　K-1号墳　埴輪4



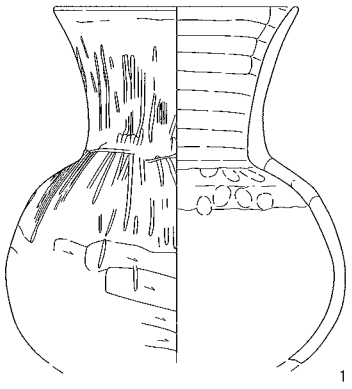
0　1：4　10cm

第27図　K-1号墳　埴輪5



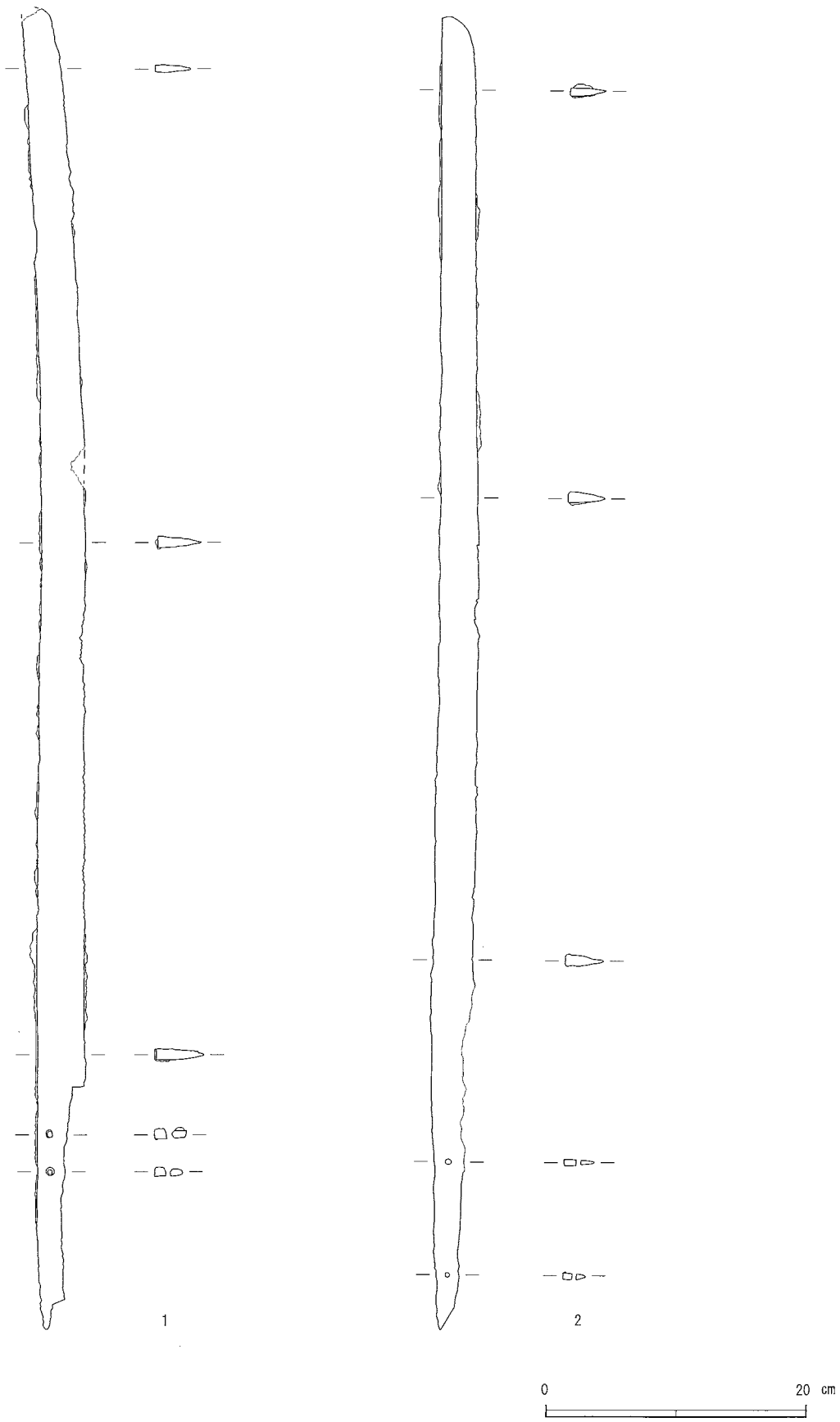
0　1：4　10 cm

第28図　K-1号墳　埴輪6



0　1：4　10 cm

第29図　K-1号墳　土器



第30図　K-1号墳　刀実測図

通No.	器種	出土位置	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	弥生土器 高坏	Y-1住 14区3層	口　19.0 底　16.3 高　21.3	外面：口縁部横方向ナデ　坏上部横方向ヘラナデ　坏下部～接合部横・縦方向ヘラケズリ　脚部縦方向ヘラミガキ　裾部縦方向ヘラケズリ後横方向ヘラナデ　裾端部横方向ナデ 内面：坏部横方向ヘラナデ後ヘラミガキを放射状に14本施文（暗文）　脚上部指ナデ　脚下部横方向ヘラナデ　裾部縦方向ヘラナデ後横方向ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　明赤褐色 焼　良	ほぼ完形
2	弥生土器 高坏	Y-1住 12区2層	口　— 底　11.4 高　(12.3)	外面：坏下部横方向ヘラミガキ　接合部横方向ナデ　脚部縦方向ヘラミガキ　脚端部横方向ナデ　坏下部～脚部赤彩 内面：坏下部ヘラミガキ・赤彩　脚上部斜方向ヘラケズリ　脚中部横方向ナデ　脚下部横方向ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　浅黄橙色 焼　良	脚部完存
3	弥生土器 台付甕	Y-1住 6区3層	口　8.4 底　— 高　(6.5)	外面：口縁部横方向ナデ　頸部２連止簾状文　胴上部櫛描文　胴下部斜方向ヘラナデ 内面：口縁部横方向ナデ　胴部横方向ヘラナデ後横方向ヘラミガキ	胎　砂粒を含む 色　灰黄褐色 焼　良	口縁部～胴部1/2
4	弥生土器 甕	Y-1住 12区2層	口　11.8 底　— 高　(13.2)	外面：口辺部波状文　口縁部斜方向ヘラナデ　頸部２連止簾状文　胴上部波状文２段　胴下部磨滅により不明 内面：口縁部～胴上部横方向ヘラナデ後横方向ヘラミガキ　胴下部磨滅により不明	胎　砂粒を多量含む 色　橙色 焼　良	口縁部～胴下部ほぼ完存
5	弥生土器 甕	Y-1住 12区2層	口　15.3 底　8.1 高　23.9	外面：口辺部横方向ナデ　口縁部縦方向ヘラナデ　頸部２連止簾状文　胴上部波状文４段　胴中部～胴下部斜・縦方向ヘラナデ　底部縦・横方向ヘラケズリ 内面：口縁部～頸部横・斜方向ヘラナデ　胴部～底部頸部が狭いため不明瞭、胴上部ヘラナデ　胴下部～底部横方向ナデと思われる	胎　砂粒を含む 色　にぶい黄褐色 焼　良	ほぼ完形
6	弥生土器 壺	Y-1住 No.1	口　22.9 底　11.8 高　47.5	外面：口縁部磨滅により不明　頸部３連止簾状文　胴上部波状文３段　胴中部～胴下部磨滅により不明　ヘラナデか 内面：磨滅により不明、口縁部はヘラナデか	胎　砂粒を含む 色　浅黄橙色 焼　良	ほぼ完形 磨滅が激しく調整は不明瞭
1	弥生土器 小型甕	Y-2住 14区1層 16区3層	口　12.1 底　5.4 高　13.1	外面：口縁部波状文３段　頸部２連止簾状文　胴上部縦方向ヘラナデ　胴下部縦方向ヘラミガキ　底部横方向ヘラナデ 内面：口縁部～頸部横方向ヘラケズリ後横方向ヘラミガキ　胴上部横方向ヘラミガキ　胴下部横方向ナデ	胎　砂粒を含む 色　にぶい黄橙色 焼　良	口縁部～胴上部・底部ほぼ完存 胴下部１/5 歪み有り
2	弥生土器 小型甕	Y-2住 10区3層	口　— 底　5.4 高　(10.9)	外面：頸部横方向ナデ　胴上部横方向ヘラナデ　胴下部縦方向ヘラナデ　頸部～胴下部赤彩と思われる 内面：頸部横方向ヘラナデ　胴上部横方向ヘラケズリ　胴下部横方向ヘラナデ　頸部赤彩と思われる	胎　砂粒を多量含む 色　明赤褐色 焼　良	頸部～底部完存
3	弥生土器 小型甕	Y-2住 10区3層	口　— 底　5.2 高　(9.8)	外面：頸部３連止簾状文　胴上部波状文の下に円形浮文６個貼付　胴中部横方向ヘラナデ　胴下部縦方向ヘラミガキ 内面：頸部横方向ヘラケズリ　胴部横方向ヘラミガキ	胎　砂粒を含む 色　にぶい橙色 焼　良	頸部～胴中部2/3 胴下部～底部完存 円形浮紋は中央に刺突紋を施す
4	弥生土器 小型甕	Y-2住 炉3	口　— 底　5.2 高　(8.2)	外面：胴上部波状文２段　胴下部縦方向ヘラミガキ 内面：胴上部横方向ヘラミガキ　胴下部横方向ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　灰黄褐色 焼　良	胴上部～胴中部1/2 胴下部～底部完存
5	弥生土器 甕	Y-2住 10区3層	口　14.8 底　5.4 高　17.5	外面：口縁部波状文３段　頸部単止簾状文　胴部縦・斜方向ヘラナデ 内面：口縁部横方向ヘラミガキ　胴上部横方向ヘラナデ　胴中部磨滅により不明　胴下部縦方向ヘラナデ	胎　砂粒多量小石含む 色　にぶい黄褐色 焼　良	口縁部～頸部3/4 胴部1/2 底部完存 歪み有り

第２表　出土土器観察表（1）

通No.	器種	出土位置	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
6	弥生土器 台付甕	Y-2住 10区3層	口　13.1 底　— 高　(10.8)	外面：口縁部波状文２段　頸部２連止簾状文　胴上部波状文２段　胴下部縦方向ヘラミガキ 内面：口縁部～胴下部横方向ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　にぶい黄褐色 焼　良	口縁部～胴部ほぼ完存
7	弥生土器 壺	Y-2住 10区3層	口　— 底　6.5 高　(21.7)	外面：口縁部縦方向ヘラナデ　頸部２連止簾状文　胴上部波状文３段　胴中部から胴下部縦方向ヘラミガキ　底部縦方向ヘラナデ 内面：口縁部横方向ヘラナデ　頸部斜方向ヘラナデ　胴部横方向ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　明黄褐色 焼　良	口縁下部～胴上部・底部完存 胴中部～胴下部3/4
8	弥生土器 台付甕	Y-2住 10区3層	口　11.8 底　— 高　(17.1)	外面：口辺部横方向ナデ　口縁部縦方向ヘラナデ　頸部２連止簾状文　胴上部波状文２段　胴下部磨滅により不明　台部縦方向ヘラナデ 内面：口縁部横方向ナデ　胴部横方向ヘラミガキ　台部横方向ナデ部分的にヘラケズリ	胎　砂粒を含む 色　明赤褐色 焼　良	口縁部～胴部1/2 台上部ほぼ完存
9	弥生土器 甕	Y-2住 11区3層	口　17.2 底　— 高　(15.0)	外面：口辺部横方向ヘラナデ　口縁部横方向ナデ　頸部単止簾状文　胴上部波状文６段　胴中部横・斜方向ヘラナデ 内面：口辺部横方向ヘラナデ　口縁部横方向ナデ　胴部横方向ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　灰黄褐色 焼　良	口縁部～胴中部4/5
10	弥生土器 壺	Y-2住 P-1	口　18.8 底　8.8 高　32.8	外面：口辺部横方向ナデ　口縁部～胴中部縦方向ヘラミガキ　胴下部斜方向ヘラミガキ　底部横方向ヘラナデ　口縁部～底部赤彩 内面：口縁部横方向ヘラミガキ　頸部磨滅により不明　胴部～底部横方向ナデ　口縁部～頸部赤彩	胎　砂粒多量小石含む 色　浅黄橙色 焼　良	口縁部1/2 頸部～底部ほぼ完存
11	弥生土器 壺	Y-2住 10区3層	口　24.2 底　9.4 高　45.9	外面：口辺部波状文　口縁部縦方向ヘラナデ　頸部横方向ヘラナデ・３連止簾状文　胴上部波状文８段その下に楕円形浮文７個貼付　胴中部横方向ヘラミガキ　胴下部～底部縦方向ヘラナデ 内面：口縁部横方向ヘラミガキ　胴部～底部頸部が狭いため不明瞭、ヘラナデ後横方向ヘラミガキと思われる	胎　砂粒を含む 色　明黄褐色 焼　良	ほぼ完形 折り返し口縁 楕円形浮紋は長軸方向に沈線を引きその両側に10個前後の刺突紋を施す
1	弥生土器 高坏	Y-3住 2区3層	口　16.6 底　— 高　(10.2)	外面：坏部磨滅により不明　脚上部縦方向ヘラミガキ　坏部～脚上部赤彩 内面：坏部磨滅により不明・赤彩　脚上部ナデ	胎　砂粒を含む 色　浅黄橙色 焼　良	坏部4/5 脚上部完存
2	弥生土器 台付甕	Y-3住 No.6	口　14.3 底　8.8 高　17.4	外面：口縁部波状文２段　頸部４連止簾状文　胴上部波状文　胴下部斜方向ヘラナデ　台部縦方向ヘラナデ　裾部横方向ヘラナデ 内面：口縁部～胴部横方向ヘラミガキ　台部斜方向ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　にぶい黄橙色 焼　良	完形 歪み有り
3	弥生土器 台付甕	Y-3住 No.7	口　10.5 底　8.0 高　14.4	外面：口縁部横方向ナデ　頸部３連止簾状文　胴上部波状文　胴下部縦方向ヘラナデ　台部縦・斜方向ヘラナデ 内面：口縁部～胴上部横方向ヘラミガキ　胴中部横方向ヘラナデ　胴下部・台上部横方向ナデ　台下部横方向ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　にぶい黄褐色 焼　良	完形 外面のヘラナデは工具幅が狭くヘラミガキに近い
4	弥生土器 甕	Y-3住 No.2	口　15.5 底　8.0 高　23.2	外面：口縁部横方向ヘラナデ　頸部２連止簾状文　胴上部波状文２段　胴中部～胴下部横・斜方向ヘラナデ　底部横方向ヘラナデ 内面：口縁部～胴中部横方向ヘラミガキ　胴下部横方向ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　にぶい黄橙色 焼　良	ほぼ完形
5	弥生土器 甕	Y-3住 8区1層	口　16.0 底　— 高　(11.0)	外面：口辺部波状文　口縁部横方向ナデ部分的に斜方向ヘラナデ　頸部～胴上部波状文３段　胴中部横方向ヘラナデ 内面：口縁部～胴中部横方向ヘラミガキ	胎　砂粒を含む 色　褐色 焼　良	口縁部～胴中部4/5
6	弥生土器 甕	Y-3住 No.11	口　17.1 底　9.2 高　31.8	外面：口縁部波状紋６段　頸部三連止簾状紋　胴上部波状紋４段　胴中部横方向ヘラミガキ　胴下部縦方向ヘラナデ　底部横方向ヘラナデ 内面：口縁部～胴下部横方向ヘラミガキ　底部ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　明赤褐色 焼　良	ほぼ完形

第３表　出土土器観察表（2）

通No.	器種	出土位置	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
7	弥生土器 壺	Y-3住 No.5	口　24.0 底　— 高　(19.8)	外面：口辺部横方向ヘラナデ　口縁部斜・横方向ヘラナデ　頸部３連止簾状文２段　胴上部波状文４段　胴中部横方向ヘラミガキ 内面：口縁部～胴中部ヘラナデ後横方向ヘラミガキ	胎　砂粒小石を含む 色　にぶい黄橙色 焼　良	口縁部～胴上部ほぼ完存 胴中部1/4 折り返し口縁
8	弥生土器 壺	Y-3住 No.9	口　21.7 底　— 高　(22.4)	外面：口辺部横方向ナデ　口縁部横・斜・縦方向ヘラナデ　頸部３連止簾状文２段　胴上部波状文５段　胴中部横方向ヘラミガキ 内面：口辺部横方向ヘラナデ　口縁部～胴中部ヘラナデ後横方向ヘラミガキ	胎　砂粒小石を含む 色　浅黄橙色 焼　良	口縁部～胴中部完存 折り返し口縁
9	弥生土器 壺	Y-3住 No.8	口　— 底　10.7 高　(35.8)	外面：胴上部斜方向ヘラナデ　胴中部横方向ヘラナデ　胴下部縦方向ヘラナデ一部縦方向ヘラミガキ　底部斜・横方向ヘラケズリ 内面：胴上部横方向ヘラミガキ　胴中部横方向ナデ　胴下部横・斜方向ヘラナデ	胎　砂粒多量小石含む 色　黄橙色 焼　良	胴上部3/4 胴中部～底部ほぼ完存 外面は磨滅が激しく調整は不明瞭
10	弥生土器 甕	Y-3住 No.10	口　21.2 底　11.8 高　40.7	外面：口縁上部横・斜方向ヘラナデ　口縁下部縦・横方向ヘラナデ　頸部２連止簾状文２段　胴上部縦方向ヘラナデ後横方向ヘラミガキ　胴中部～胴下部横方向ヘラナデ後縦方向ヘラミガキ　底部横方向ヘラナデ 内面：口縁部横方向ヘラナデ後横方向ヘラミガキ　胴部～底部頸部が狭いため不明瞭、ヘラナデ後横方向ヘラミガキと思われる	胎　砂粒を含む 色　にぶい褐色 焼　良	ほぼ完形
11	弥生土器 甕	Y-3住 No.1	口　17.0 底　— 高　(23.1)	外面：口縁部～胴上部波状文　胴中位以下ヘラミガキ 内面：口縁部磨滅により不明だがミガキか胴部横方向ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　灰黄褐色 焼　良	口縁部～胴部3/4
1	弥生土器 甕	Y-5住 No.5	口　13.6 底　— 高　(12.3)	外面：口縁部～胴上部棒状工具による波状文　胴下部磨滅により不明 内面：磨滅により不明、口縁部～胴中部横方向ヘラナデか	胎　砂粒を多量含む 色　にぶい黄褐色 焼　良	口縁部～胴上部ほぼ完存 胴中部1/3
2	弥生土器 高坏	Y-5住 No.4	口　16.8 底　10.1 高　14.1	外面：口縁部横方向ナデ　坏部斜方向ヘラミガキ　脚部縦方向ヘラミガキ　脚端部横方向ナデ　口縁部～脚部赤彩 内面：坏部磨滅により不明・赤彩　脚部横方向ナデ	胎　砂粒多量小石含む 色　橙色 焼　良	1/2
3	弥生土器 台付甕	Y-5住 No.2	口　13.5 底　8.8 高　17.1	外面：口縁部波状文　頸部４連止簾状文　胴上部波状文　胴中部斜方向ヘラケズリ　胴下部斜方向ヘラミガキ　台上部縦方向ヘラミガキ　台下部縦方向ヘラナデ 内面：口縁部～胴部横方向ナデ後横方向ヘラミガキ　台部横方向ナデ後横方向ヘラケズリ	胎　砂粒を含む 色　にぶい褐色 焼　良	ほぼ完形
4	弥生土器 台付甕	Y-5住 No.1	口　15.1 底　10.2 高　20.3	外面：口縁部横方向ナデ　頸部３連止簾状文　胴上部磨滅により不明、波状文か　胴下部横方向ヘラケズリ　台部磨滅により不明 内面：磨滅により不明	胎　砂粒を多量含む 色　にぶい黄褐色 焼　良	ほぼ完形
5	土製品 紡錘車	Y-5住 16区3層	長 4.9, 幅4.7, 厚1.0, 重量29.1ｇ 上面は円形、側面は三角形を呈する。裏面が抉られているため断面は弓状となる。表面には整形時のヘラナデが残る。穿孔は中央部にあるくびれ、表と裏で穴の進む方向が異なることから両面から開けられたと思われる。			完形
1	土師器 坏	YH-1住 カマド一括	口　12.4 底　— 高　5.7	外面：口縁部横方向ナデ　体部横方向ヘラケズリ　底部ヘラケズリ 内面：横方向ナデ後体部縦方向ヘラミガキ	胎　砂粒を含む 色　にぶい褐色 焼　良	完形
2	土師器 坏	YH-1住 15区2層 16区2層	口　13.6 底　— 高　5.7	外面：口縁部横方向ナデ　体部ヘラナデか底部ヘラケズリ 内面：横方向ナデ後体上部斜方向ヘラミガキ	胎　砂粒を含む 色　橙色 焼　やや不良	ほぼ完形
3	土師器 坏	YH-1住 15区2層 16区2層	口　13.8 底　— 高　(5.0)	外面：口縁部横方向ナデ　体上部ヘラナデか体下部横方向ヘラケズリ 内面：横方向ナデ後体部斜方向ヘラミガキ	胎　砂粒を含む 色　橙色 焼　やや不良	口縁部～体下部2/3

第４表　出土土器観察表（3）

通No.	器種	出土位置	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
4	土師器 坏	YH-1住 15区2層	口　13.4 底　— 高　5.2	外面：口縁部横方向ナデ　体部横方向ナデか指頭押圧痕あり　底部ヘラケズリ 内面：磨滅により不明	胎　砂粒を多量含む 色　橙色 焼　やや不良	ほぼ完形
5	土師器 坏	YH-1住 12区3層	口　14.0 底　— 高　5.1	外面：口縁部横方向ナデ　体上部ヘラナデか体下部横方向ヘラケズリ　底部ヘラケズリ 内面：横方向ナデ後体上部斜方向ヘラミガキ	胎　砂粒を含む 色　橙色 焼　良	ほぼ完形
6	土師器 甕	YH-1住 カマド一括	口　13.4 底　— 高　(12.5)	外面：口縁部横方向ナデ　胴部横・斜方向ヘラケズリ 内面：口縁部横方向ナデ　胴部横・斜方向ヘラケズリ	胎　砂粒を含む 色　橙色 焼　良	口縁部～胴部ほぼ完存
7	土師器 甑	YH-1住 11区3層	口　27.4 底　9.7 高　22.5	外面：口縁部横方向ナデ　胴上部～胴中部縦方向ヘラケズリ　胴下部横方向ナデか　胴部下端横方向ヘラナデ 内面：口縁部横方向ナデ　胴部横・斜・縦方向ヘラケズリ胴上部に縦方向ヘラミガキ有り胴部下端横・斜方向ヘラケズリ	胎　砂粒小石を含む 色　浅黄橙色 焼　良	口縁部～頸部1/2 胴上部～胴中部4/5 胴下部完存
8	土師器 甕	YH-1住 カマド一括	口　20.8 底　— 高　(13.1)	外面：口縁部横方向ヘラナデ　頸部横方向ナデ・指頭押圧痕　胴部斜方向ヘラケズリ 内面：口縁部横方向ナデ　胴部横・斜方向ヘラケズリ	胎　砂粒多量小石含む 色　明赤褐色 焼　良	口縁部～胴上部4/5
9	土師器 甕	YH-1住 No.1	口　— 底　7.8 高　(24.6)	外面：頸部横方向ナデ　胴上部～胴中部縦方向ヘラケズリ　胴下部横・斜方向ヘラケズリ 内面：頸部横方向ナデ　胴上部・胴下部横方向ヘラナデ　胴中部縦方向ヘラナデ	胎　砂粒小石を含む 色　にぶい黄橙色 焼　良	頸部～胴中部2/3 胴下部～底部完存 胴中部に焼成後の穿孔２箇所あり
10	土師器 甕	YH-1住 11区3層	口　16.7 底　7.2 高　29.5	外面：口縁部横方向ヘラナデ　胴上部～胴中部斜方向ヘラケズリ　胴下部横方向ヘラケズリ・縦方向ヘラナデ 内面：口縁部横方向後斜方向ヘラナデ　胴部ヘラナデか	胎　砂粒小石を含む 色　橙色 焼　良	口縁部・底部完存 胴部3/4
1	土師器 甕	H-1住 14区3層	口　17.2 底　— 高　(7.0)	外面：口縁部横方向ナデ　頸部斜方向ヘラケズリ後横方向ナデ　胴上部縦方向ヘラケズリ 内面：口縁部～胴上部横方向ヘラナデ	胎　砂粒多量小石含む 色　にぶい黄橙色 焼　良	口縁部～胴上部1/2
2	土師器 甕	H-1住 5区1層	口　15.8 底　— 高　(12.6)	外面：口縁部横方向ナデ　胴上部～胴中部縦方向ヘラケズリ 内面：口縁部横方向ヘラナデ　胴上部横方向ヘラナデ後縦方向ヘラナデ　胴下部斜方向ヘラナデ	胎　砂粒小石を含む 色　橙色 焼　良	口縁部～胴上部1/5
3	土師器 甑	H-1住 D-1	口　25.0 底　8.0 高　25.5	外面：口縁部～頸部横方向ナデ　胴部縦方向ヘラケズリ　胴部下端斜方向ヘラケズリ 内面：口縁部横方向ナデ　胴部横方向ヘラナデ　胴部下端横方向ヘラケズリ	胎　砂粒小石を含む 色　にぶい黄橙色 焼　良	ほぼ完形
1	土師器 坏	H-2住 10区3層	口　12.0 底　— 高　(5.3)	外面：口縁部横方向ナデ　体部ヘラケズリ 内面：横方向ナデ	胎　砂粒を含む 色　橙色 焼　良	口縁部～体部2/5 模倣坏
2	土師器 坏	H-2住 10区3層	口　14.0 底　— 高　4.5	外面：口縁部横方向ナデ　底部ヘラケズリ 内面：横方向ナデ後体上部斜方向ヘラミガキ	胎　砂粒を含む 色　橙色 焼　良	1/4
3	土師器 坏	H-2住 10区3層	口　12.8 底　— 高　5.7	外面：口縁部横方向ナデ　底部ヘラケズリ 内面：磨滅により不明	胎　砂粒を含む 色　橙色 焼　やや不良	3/4
4	弥生土器 小型甕	H-2住 6区3層	口　13.6 底　— 高　(12.0)	外面：口縁部横方向ナデ　胴部磨滅により不明、横方向ヘラナデか 内面：口縁部横方向ヘラナデ　胴部斜方向ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　にぶい褐色 焼　良	口縁部～胴部1/2
1	土師器 坏	H-3住 貯蔵穴	口　12.8 底　— 高　3.6	外面：口縁部横方向ナデ　体部～底部横方向ヘラケズリ 内面：口縁部横方向ナデ　体部横方向ヘラナデ　底部左回転方向ヘラケズリ	胎　砂粒を含む 色　明黄褐色 焼　良	ほぼ完形

第５表　出土土器観察表（4）

通No.	器種	出土位置	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
2	土師器 坏	H-3住 貯蔵穴	口　13.6 底　3.8 高　4.5	外面：口縁部横方向ナデ　体部～底部横方向ヘラケズリ 内面：口縁部横方向ナデ　体部～底部横方向ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　明赤褐色 焼　良	ほぼ完形
3	土師器 坏	H-3住 15区3層	口　10.8 底　3.9 高　4.0	外面：口縁部横方向ナデ　体部～底部横方向ヘラケズリ 内面：口縁部～体上部横方向ナデ　体下部～底部横方向ヘラナデ	胎　砂粒小石を含む 色　明赤褐色 焼　良	完形 模倣坏
4	土師器 坏	H-3住 16区3層	口　11.7 底　— 高　4.4	外面：口縁部横方向ナデ　体部～底部横方向ヘラケズリ 内面：口縁部横方向ナデ　体部～底部横方向ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　橙色 焼　良	1/2 模倣坏
5	土師器 坏	H-3住 カマド一括	口　15.7 底　— 高　(3.2)	外面：口縁部横方向ヘラナデ　体部横方向ヘラケズリ 内面：口縁部横方向ナデ　体部横方向ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　灰褐色 焼　良	口縁部～体上部 2/3
6	土師器 埦	H-3住 16区3層	口　10.1 底　— 高　6.7	外面：口縁部横方向ナデ　体部～底部横方向ヘラケズリ 内面：口縁部～体上部横方向ナデ　体下部～底部横方向ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　橙色 焼　良	完形
1	土師器 壺	K-1号墳 一括	口　13.0 底　— 高　(18.8)	外面：口縁部～胴上部ヘラナデ後縦方向ヘラミガキ　胴中部～胴下部横方向ヘラケズリ 内面：口縁部～頸部横方向ヘラナデ　胴上部指頭押圧痕　胴中部～胴下部横方向ナデ	胎　砂粒を含む 色　橙色 焼　良	口縁部～胴上部 4/5 胴中部～胴下部 2/3

※（　）は残存

第６表　出土土器観察表（5）

番号	種類	計測値(cm)	凸帯	透孔		胎土・色調	刷毛目	成形・整形の特徴	出土位置	備考
			断面形状	形状	縦×横		/2cm			
1	円筒埴輪	底径 (10.9) 1段 15.5	三角形	−	−	片岩・粗粒 チャート 明黄褐色	10〜13	外面 縦刷毛。 摩滅著しい。 内面 縦指ナデ。		底部に焼きムラあり。底面に棒状圧痕。
2	円筒埴輪	底径 12.2 1段 14.3	三角形	−	−	片岩・粗粒 チャート 明黄褐色	13	外面 縦刷毛。 内面 縦指ナデ。		底部に焼きムラあり。底面に棒状圧痕。
3	円筒埴輪	底径 11.9 1段 12.5	三角形	−	−	片岩・粗粒 チャート 橙色	12〜14	外面 縦刷毛。 内面 縦指ナデ。		底面に棒状圧痕。
4	円筒埴輪	底径 12.7 1段 15.1	三角形	円	−×(6.8)	片岩・粗粒 チャート 橙色	13	外面 縦刷毛。 内面 縦指ナデ。		底面に棒状圧痕。
5	円筒埴輪	底径 12.0 1段 14.2	三角形 〜 台形	−	−	片岩・粗粒 チャート 明褐色	11〜13	外面 縦刷毛。 内面 縦指ナデ。		外面底部に木目状圧痕。底面に棒状圧痕。
6	円筒埴輪	底径 13.0 1段 13.1	三角形 〜 台形	−	−	片岩・粗粒 チャート 橙色	12〜13	外面 縦刷毛。 内面 縦指ナデ。		外面1段にヘラの抉りあり。底面に棒状圧痕。
7	円筒埴輪	底径 13.2 1段 12.0	三角形	−	−	片岩・粗粒 チャート 橙色	7〜11	外面 縦刷毛。 内面 縦指ナデ。		底面に棒状圧痕。
8	円筒埴輪	底径 (12.0) 1段 12.2	三角形	−	−	片岩・粗粒 チャート 明赤褐色	13〜15	外面 縦刷毛。 内面 縦指ナデ。		底面に棒状圧痕。外面1段の剥落著しい。
9	円筒埴輪	底径 12.3 1段 13.0	台形	−	−	片岩・粗粒 チャート 橙色	14〜15	外面 縦刷毛。 摩滅著しい。 内面 縦指ナデ。		底面に棒状圧痕。
10	円筒埴輪	底径 11.8 1段 15.3	三角形 〜 台形	−	−	片岩・粗粒 チャート 明褐色	11〜13	外面 縦刷毛。 内面 縦指ナデ、 指頭圧痕。		底面に棒状圧痕。外面1段の剥落著しい。
11	円筒埴輪	底径 12.2 1段 14.1	三角形	円	−×6.3	片岩・粗粒 チャート 橙色	12〜15	外面 縦刷毛。 内面 縦指ナデ。		外面2段に線刻あり。底面に棒状圧痕。
12	円筒埴輪	底径 12.2 1段 14.3	台形	−	−	片岩・粗粒 チャート 橙色	10〜13	外面 縦刷毛。 内面 縦指ナデ。		
13	円筒埴輪	底径 13.1 1段 16.2 2段 11.6	三角形	円	7.2×(6.4)	片岩・粗粒 チャート 明褐色	11〜13	外面 縦刷毛。 内面 縦指ナデ。		外面底部に木目圧痕。底面に棒状圧痕。
14	円筒埴輪	底径 12.0 1段 11.9	台形	−	−	片岩・粗粒 チャート 橙色	13〜15	外面 縦刷毛。 摩滅著しい。 内面 縦指ナデ。		底面に棒状圧痕。
16	朝顔形 円筒埴輪	口径 (33.2) 器高 50.8 底径 (13.0) 1段 10.5 2段 8.6 3段 9.8 4段 8.2 5段 4.7 6段 9.0	三角形 〜 台形	円	5.5×5.4	粗粒 チャート にぶい 黄橙色	12	外面 縦刷毛。第4段はやや斜め刷毛、第5段はナデか。口縁部横ナデ。 内面 縦指ナデ。第5段は斜め指ナデ、第6段は斜め刷毛、口縁部横ナデ。		第4段外面に線刻あり。第1段外面の剥離著しい。
18	円筒埴輪	底径 (11.5) 1段 13.9	三角形	−	−	片岩・粗粒 チャート 黄橙色	9〜11	外面 縦刷毛。 摩滅著しい。 内面 縦指ナデ。 指頭圧痕。		底面に棒状圧痕。

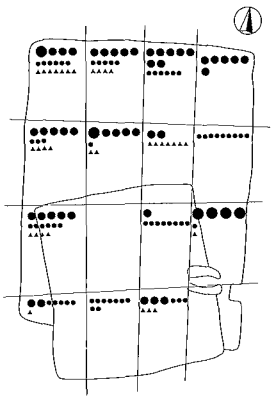
第7表　埴輪観察表（1）

番号	種類	計測値(cm)	凸帯	透孔		胎土・色調	刷毛目	成形・整形の特徴	出土位置	備考
			断面形状	形状	縦×横		/2cm			
19	円筒埴輪	底径 11.8 1段 13.0	三角形	−	−	片岩・粗粒 チャート 橙色	13〜14	外面 縦ハケ。 摩滅著しい。 内面 縦指ナデ		底面に棒状圧痕。
20	円筒埴輪	底径 13.3 1段 14.3	三角形	−	−	片岩・粗粒 チャート 橙色	13〜15	外面 縦刷毛。 内面 縦指ナデ。		底面に棒状圧痕。
21	円筒埴輪	底径 12.7 1段 10.6	台形	−	−	片岩・粗粒 チャート 橙色	13〜15	外面 縦刷毛。 内面 縦指ナデ。		外面底部に木目圧痕。底面に棒状圧痕。
22	円筒埴輪	底径 11.9 1段 14.8	三角形 〜 台形	−	−	片岩・粗粒 チャート 明黄褐色	12〜13	外面 縦刷毛。 内面 縦指ナデ。		底部に焼ムラがあり欠損する。底面に棒状圧痕。
23	円筒埴輪	底径 12.1 1段 13.1	台形	−	−	粗粒 チャート 橙色	11〜13	外面 縦刷毛。 内面 縦指ナデ。		底面に棒状圧痕。
24	円筒埴輪	底径 12.2 1段 12.8	三角形 〜 台形	−	−	粗粒 チャート 橙色	15〜16	外面 縦刷毛。 内面 縦指ナデ。		底部に焼ムラがあり欠損する。底面に棒状圧痕。
26	円筒埴輪	底径 11.7 1段 12.6	三角形	−	−	片岩・粗粒 チャート 橙色	12〜14	外面 縦刷毛。 摩滅著しい。 内面 縦指ナデ。		底部に焼ムラがあり欠損する。底面に棒状圧痕。
27	朝顔形 円筒埴輪	口径 (34.2) 底径 (13.2) 1段 7.4 2段 8.1 3段 11.2 4段 7.5 5段 − 6段 11.1	台形	円形	5.2×6.1	粗粒 チャート 橙色〜 灰黄色	13〜15	外面 縦刷毛。 口縁部横ナデ。 内面 指ナデ。 第6段は斜めハケ、口縁部横ナデ。		第4段外面に線刻あり。底部に焼ムラがあり欠損する。底面に棒状圧痕。1〜4段の内外面は大半が灰黄色を呈する。
28	円筒埴輪	底径 13.1 1段 14.7	台形	−	−	片岩・粗粒 チャート 橙色	13〜15	外面 縦刷毛。 摩滅著しい。 内面 縦指ナデ。		底面に棒状圧痕。
29	円筒埴輪	底径 13.0	−	−	−	粗粒 チャート 橙色	14	外面 縦刷毛。 内面 縦指ナデ。		底面に棒状圧痕。
30	円筒埴輪	底径 12.4 1段 15.5	三角形	−	−	片岩・粗粒 チャート 橙色	14〜15	外面 縦刷毛。 内面 縦指ナデ。		外面底部に木目圧痕。底面に棒状圧痕。

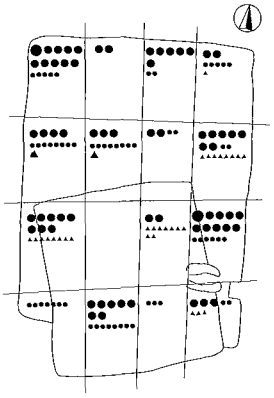
第8表 埴輪観察表(2)

番号	器種	計測値(cm)	備考
1	直刀	残存全長:106 刃部残存長:87 刃部幅:3.1〜4.1 刃部背厚:0.6〜1 茎部長:20.2 茎部元幅:2.6 茎部背厚:0.8	不均等両関 目釘穴あり
2	直刀	全長:99.6 刃部残存長:78.9 刃部幅:2.5〜3.3 刃部背厚:0.7〜0.9 茎部残存長:12 茎部元幅:2.3 茎部背厚:0.4	不均等両関? 目釘穴あり

第9表 刃観察表



Y-1 1層



Y-1 2層

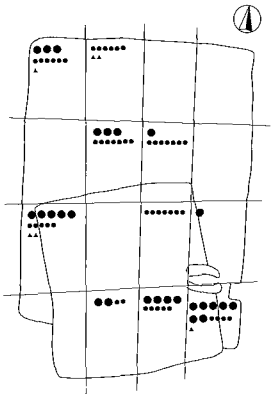
0 ～ 10g ～ 100g ～ 1000g

弥生　カメ・ツボ　・　●　●

ツキ　▪　▲　▲

土師　カメ　◦　○　○

ツキ　▫　△　△



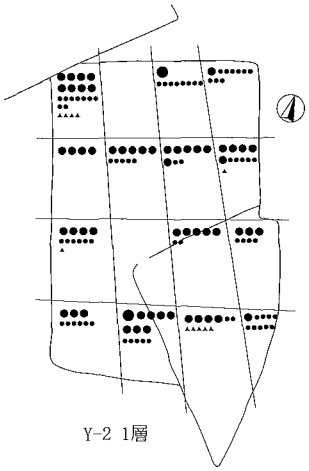
Y-1 3層

カマド　●●●●●●・・・・・

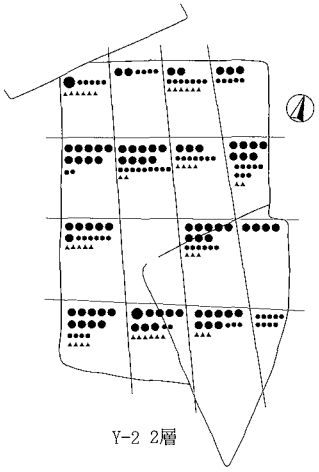
貯蔵穴　●●●●・・・・・・・

P-1　・・・

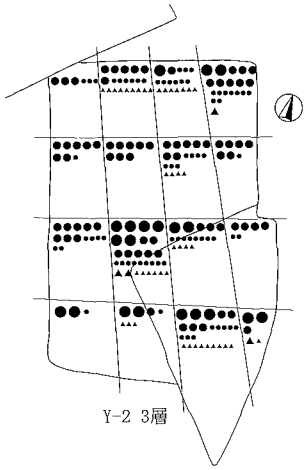
P-2　・・・・



Y-2 1層



Y-2 2層



Y-2 3層

炉３　●・・・・・・・

P-1　●●●・・・・・・・・

▲▲▲▲▲▲▲

P-2　・・・・・

P-3　・・・・

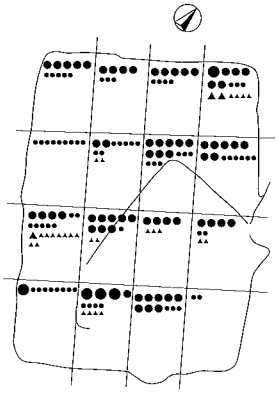
P-4　・・

P-5　・・・・・・・・・

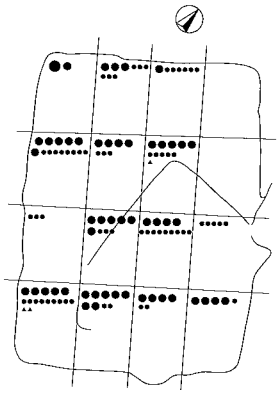
P-6　●・・

P-7　・・・・・・

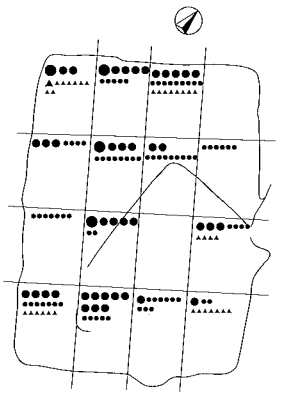
第31図　16分割遺物出土分布図（1）



Y-3 1層

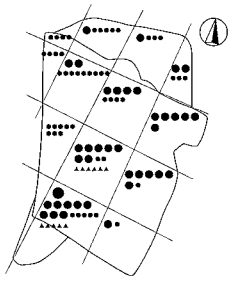


Y-3 2層

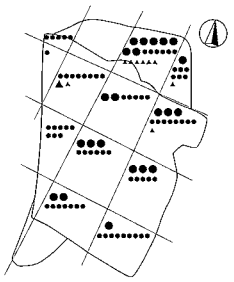


Y-3 3層

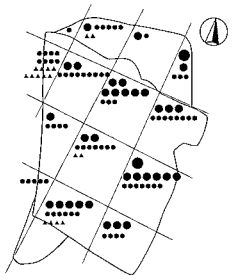
NO.1
NO.2
NO.3
NO.4
NO.5
NO.6
NO.8
NO.9
P-1
P-2
P-3
P-4
P-5
P-6
P-7
P-8
P-9
P-10
炉-1
炉-2



Y-5 1層



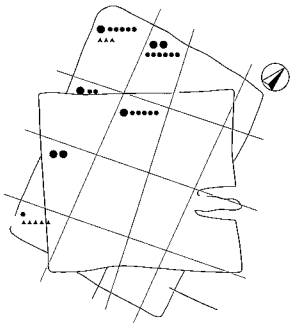
Y-5 2層



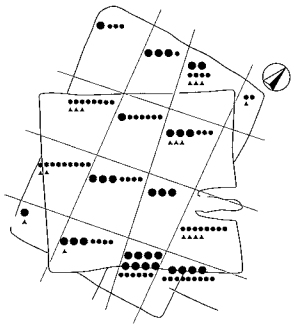
Y-5 3層

NO.1
NO.2
NO.3
NO.4
NO.5
P-1
P-2
P-3
P-4
P-5
P-1
P-6

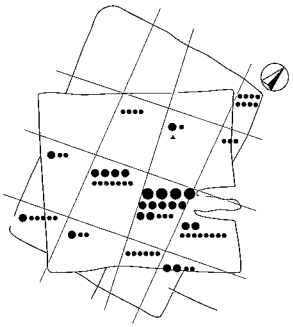
第32図　16分割遺物出土分布図（2）



YH-1 1層

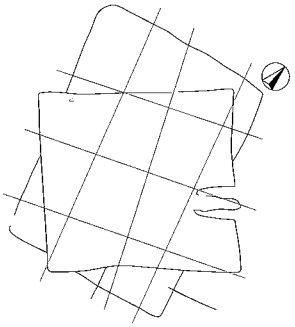


YH-1 2層

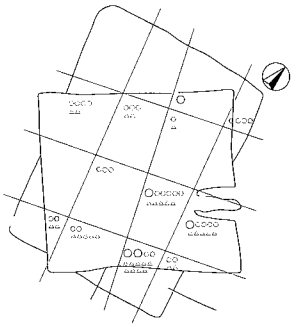


YH-1 3層

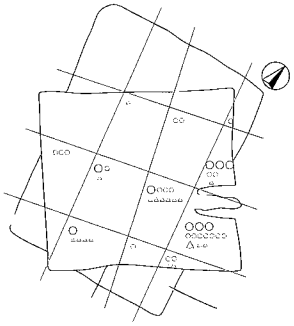
貯蔵穴
カマド
NO.1
P-1
P-2
P-3



YH-1 1層



YH-1 2層

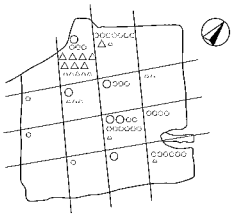


YH-1 3層

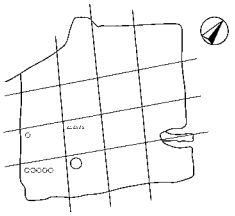
カマド
NO.1
P-3
P-4

第33図　16分割遺物出土分布図（3）

H-1 1層

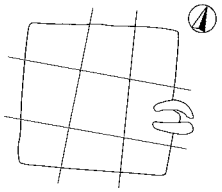


H-1 2層

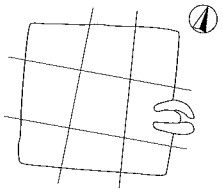


H-1 3層

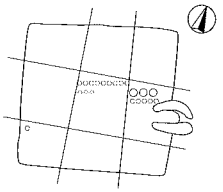
D-1
カマド東一括
カマド北一括
北カマド
P-1
貯蔵穴



H-2 1層

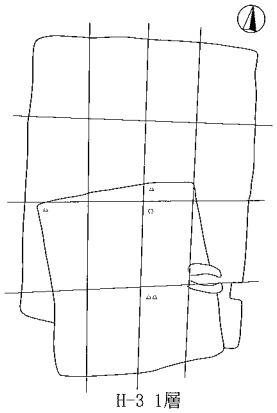


H-2 2層

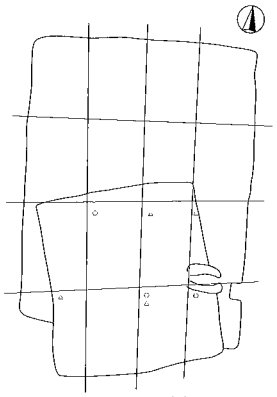


H-2 3層

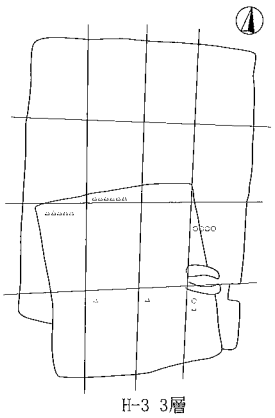
カマド
P-2
P-3



H-3 1層



H-3 2層



H-3 3層

P-1
カマド
その他

第34図　16分割遺物出土分布図（4）

Ⅶ　まとめ

はじめに

高橋Ⅳ遺跡は先にふれたとおり、『古屋地区遺跡群』（高橋遺跡、高橋Ⅱ遺跡、高橋Ⅲ遺跡）の一端にあたる遺跡である。古屋地区遺跡群は、八咫川が九十九川に注ぎ込む流末の舌状微高地先端に位置し、この舌状微高地は２枚の泥流層の堆積で形成されたことが確認されている。

遺構は上部泥流層上で確認され、『古屋地区遺跡群』（高橋遺跡、高橋Ⅱ遺跡、高橋Ⅲ遺跡）からは弥生時代の住居址69軒、４世紀後半の住居址５軒、５世紀後半に住居址37軒、６世紀前半の住居址17軒、８世紀の住居址１軒、不明の住居址１軒、古墳８基、配石遺構１基、竪穴状遺構１基、掘立柱建物址１棟、溝２条が検出されており、今回の高橋Ⅳ遺跡の調査で確認された弥生時代の住居址７軒、５世紀後半の住居址３軒、６世紀前半の住居址１軒、古墳１基を加え、弥生時代の住居址76軒、５世紀後半の住居址40軒、６世紀前半の住居址18軒、古墳９基が確認されたことになる。

今回の発掘地区は舌状微高地の西の付け根近くにあたるため、高橋遺跡・高橋Ⅱ遺跡・高橋Ⅲ遺跡と合わせて舌状微高地の90％程が調査されたことになる。今回の調査結果を見ると、住居址はまだ西に伸びていくことが推測されるため、舌状微高地西端の付け根部分も注意して見る必要がある。

『古屋地区遺跡群』報告の中で、本遺跡の南西約400㍍付近で調査された杉名薬師遺跡との関係性を指摘したが、今回の調査によっても、両遺跡の関係性は強く裏付けられるものとなった、と考えられる。

弥生時代

検出された遺構は住居址７軒で、『古屋地区遺跡群』（高橋遺跡、高橋Ⅱ遺跡、高橋Ⅲ遺跡）において分類したとおり、長軸が８㍍以上の大型のもの、長軸が７㍍前後の中型のもの、長軸が５㍍～６㍍の小型のものに大別することが出来る。主軸方向は南北を指向する。

住居址の構造を観ると、主柱穴４本と住居中央に幾つかの柱穴を持つ。地床炉は北よりの主柱穴の間に設置され、炉の延長線上壁際に棟持柱と考えられる柱穴を１本持ち、切り妻の構造が考えられる。また、棟持柱と考えられる柱穴とは対面側の壁際に２本～４本の柱穴が確認され、棟持柱や出入り口施設に関係する柱穴と考えられる。以上のような構成が住居址の基本型と考えることが出来る。この他大型の住居址の壁際に、小さめな柱穴が規則的に配されており、住居壁面の構造に関係する柱穴と考えられる。これらの特徴も『古屋地区遺跡群』（高橋遺跡、高橋Ⅱ遺跡、高橋Ⅲ遺跡）と同様である。

出土遺物は弥生時代後期樽式期（Ⅴ期）であり、遺物の遺存状態は比較的良好で、特にY-3

住（B）では、あたかも土器が床面に置かれていた状況を示すような出土状態が見られた。

つぎに『古屋地区遺跡群』（高橋遺跡、高橋Ⅱ遺跡、高橋Ⅲ遺跡）で指摘した杉名薬師遺跡との関係についてであるが、今回の調査結果もそれを裏付けるものとなろう。以下に『古屋地区遺跡群』の抜粋を記しておく。

「杉名薬師遺跡との関係は、杉名薬師遺跡の最盛期が弥生Ⅴ期（後期）で、高橋遺跡と同時期であることと、立地環境的観点からも両遺跡は一連の集落と考えられる。九十九川や八咫川の形成した低地に、水田可耕地を広げていった集落が、高所の杉名薬師遺跡から低所の高橋遺跡へ集落拡大していったものと考えられる。なお、高橋遺跡周辺の低地に於いて水田址等の生産遺構を確認するため試掘調査を実施したが、当該期はもとより、九十九川流域では一般的に確認の出来る浅間Ｂ軽石下の遺構も確認することは出来なかった。これは河川氾濫により土壌が流失してしまったためで、水田耕作の可能性を否定するものではない。」

古墳時代

検出された遺構は５世紀後半の住居址３軒、６世紀前半の住居址１軒である。

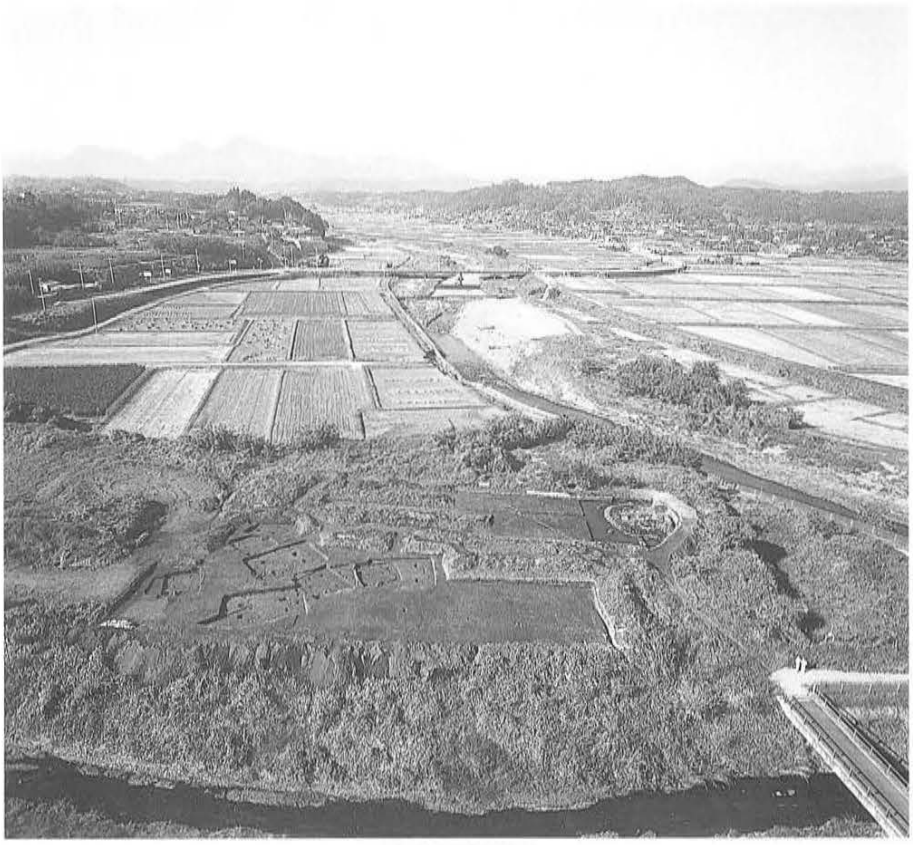
５世紀後半の住居址は、『古屋地区遺跡群』（高橋遺跡、高橋Ⅱ遺跡、高橋Ⅲ遺跡）の分類基準の小型（長軸が４㍍～５㍍）の住居址で、主軸方向は北東を指向し、東に竈を設けている。H-1号住に関しては北壁にも竈が設けられているが、新旧関係等は明確に確認できなかった。『古屋地区遺跡群』（高橋遺跡、高橋Ⅱ遺跡、高橋Ⅲ遺跡）において、このような類例は６世紀前半の住居址で１軒確認されているが５世紀後半の住居址での例はない。東竈に比べ北側の竈作りがしっかりとしていること、東南壁の両隅に貯蔵穴様の土坑が検出されたことが特徴としてあげられる。

６世紀前半の住居址は、規模、東指向の主軸方向など、『古屋地区遺跡群』（高橋遺跡、高橋Ⅱ遺跡、高橋Ⅲ遺跡）の中でももっとも高い出現率を示すタイプである。

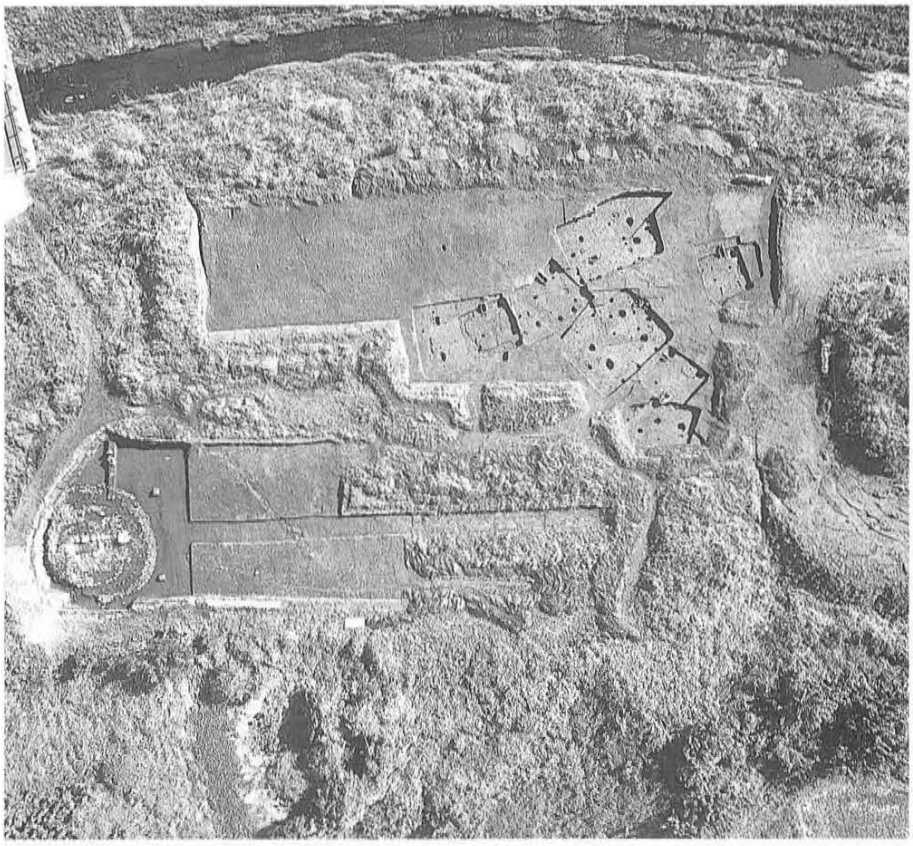
古墳

前述のとおり古墳は１基検出された。時期は古墳時代後期のものと思われ、『古屋地区遺跡群』（高橋遺跡、高橋Ⅱ遺跡、高橋Ⅲ遺跡）検出の８基と同時期と考えられる。『古屋地区遺跡群』で記述したとおり、杉名薬師遺跡の周辺には古墳が７基存在していることが、市内遺跡詳細分布調査で確認されている。いずれも円墳と思われ、散布遺物などからも高橋遺跡、高橋Ⅱ遺跡、高橋Ⅲ遺跡、高橋Ⅳ遺跡で確認された９基の古墳と同時期と考えられる。これらと合わせた16基の古墳は、九十九川右岸の杉名薬師地区を中心とした古墳時代後期の群集墳として捉えることができるであろう。

写 真 図 版

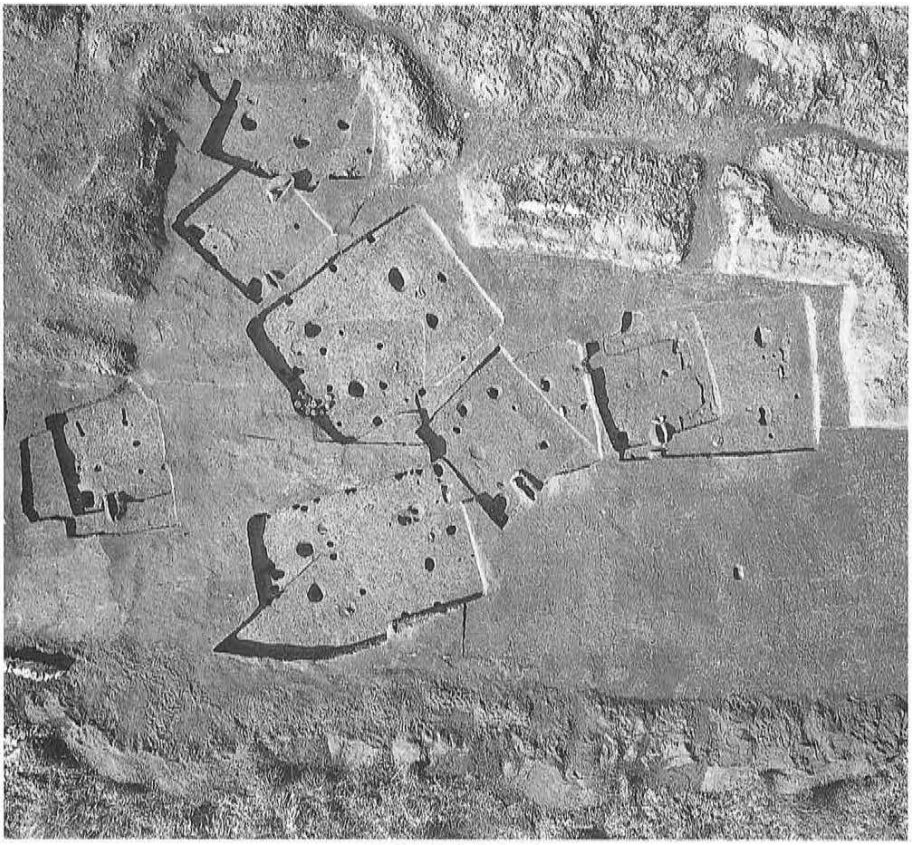


高橋Ⅳ遺跡遠景

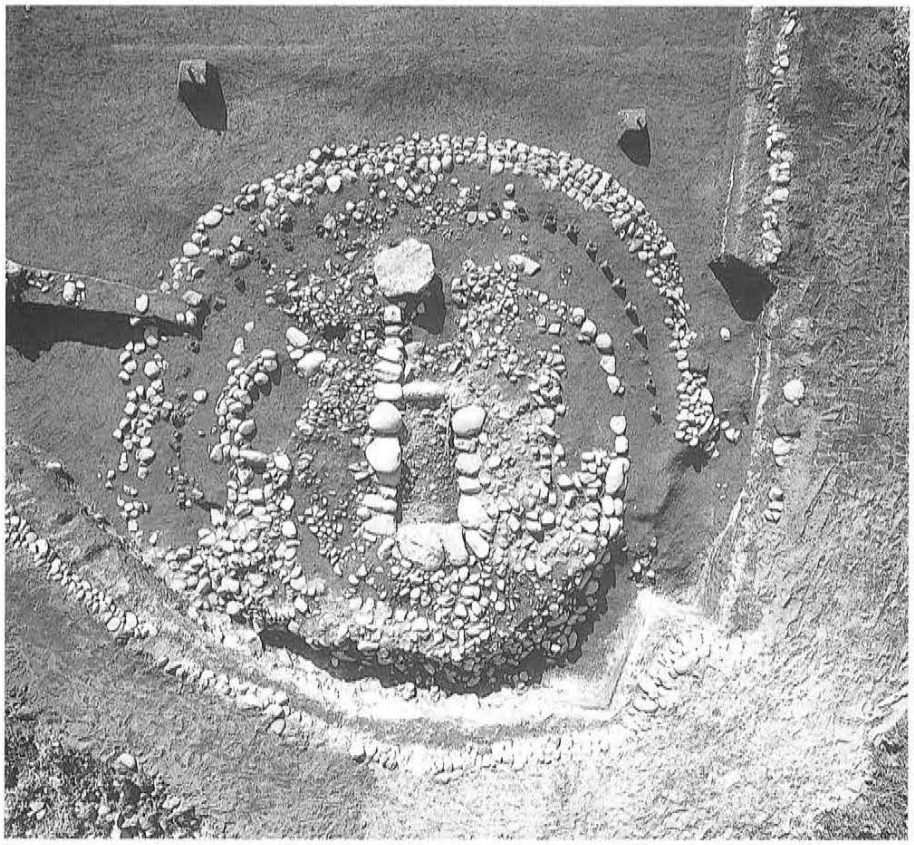


高橋Ⅳ遺跡全景

図版2

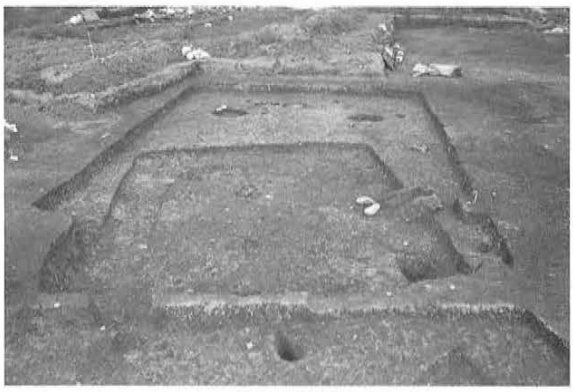


高橋Ⅳ遺跡全景



K-1号墳全景

Y-1・H-3



Y-1・H-3

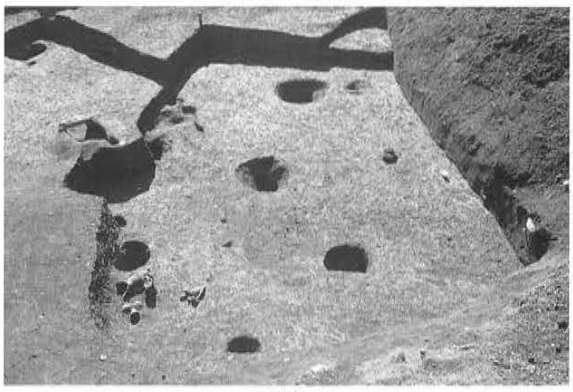
Y-2 (A)・(B)

Y-2 (A)・(B)

Y-3 (A)・(B)

Y-3 (A)・(B)

Y-3 (A)・(B)

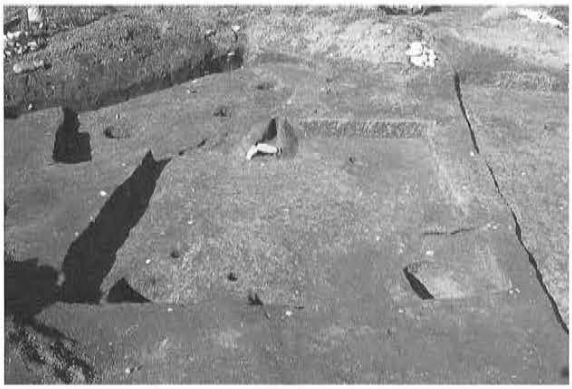


Y-5

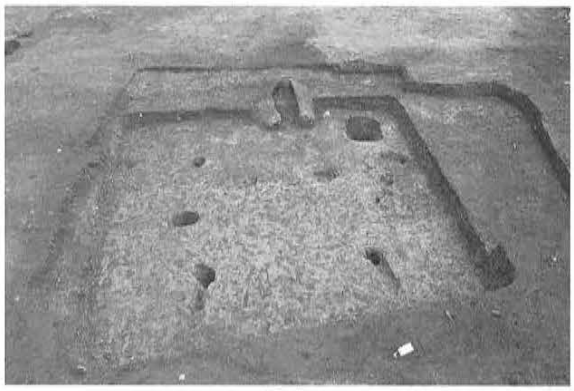
図版4

YH-1

YH-1



H-1



H-2

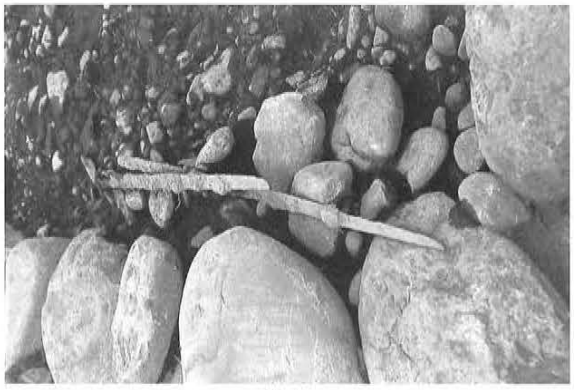
K-1

K-1

K-1

K-1

K-1



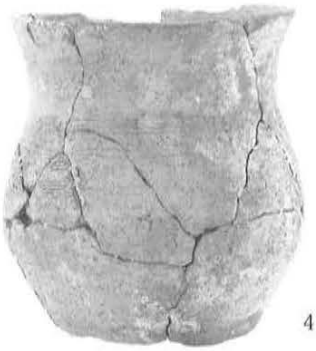
K-1

図版6

1

2

3


4

5

6

Y-1号住出土遺物

1

2

3

4

5

6

Y-2号住出土遺物（1）

図版8

Y-2号住出土遺物（2）

Y-3号住出土遺物（1）

図版10

7

8

9

Y-3号住出土遺物（2）

10

11

Y-3号住出土遺物（3）

図版12

1

2

3

4

5

Y-5号住出土遺物

1

2

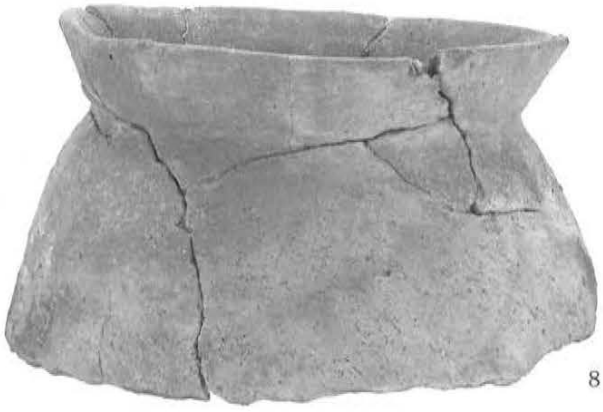
3

4

5

7

6


8

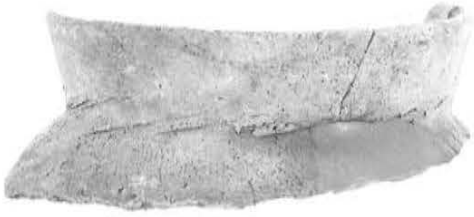
YH-1号住出土遺物（1）

図版14

9

10

YH-1号住出土遺物（2）



1

2

3

H-1号住出土遺物

1

2

3

4

H-2号住出土遺物

1

2

3

4

H-3号住出土遺物（1）

図版16

5

6

H-3号住出土遺物（2）

1

K-1号墳出土遺物

K-1号墳　埴輪（1）

図版18

10

11

12

13

14

18

19

20

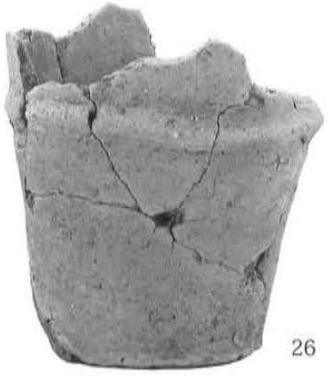
21

K-1号墳　埴輪（2）

22

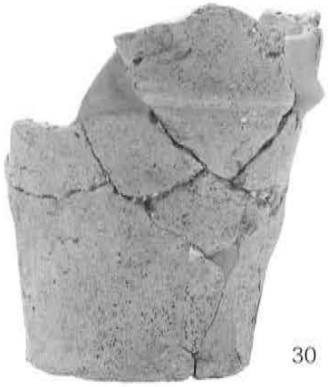
23

24


26

28

29


30

K-1号墳　埴輪（3）

16

K-1号墳　埴輪（4）

27

K-1号墳　埴輪（5）

図版22

K-1号墳刀1

K-1号墳刀2

発掘調査　抄録

ふりがな	たかはしよんいせき（ふるやちくいせきぐん）
書名	高橋Ⅳ遺跡（古屋地区遺跡群）発掘調査報告書
副書名	老人スポーツ広場用地取得事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	千田茂雄　鬼形敦子
編集機関	安中市教育委員会
編集機関所在地	379－0292　群馬県安中市松井田町新堀245　　TEL027－382－1111
発行年	西暦2009年　3月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	°′″	°′″			
高橋Ⅳ遺跡（たかはしよんいせき）	安中市古屋字高橋（あんなかしふるやあざたかはし）	102113	D－23	36°19′29″	138°51′59″	20070821～20080331 20080401～20090331	13,100㎡	老人スポーツ広場用地取得事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
高橋Ⅳ遺跡	集落	弥生時代 ５世紀後半 ６世紀前半	住居址７軒 住居址３軒 住居址１軒 古墳１基	土器 土師器・須恵器 須恵器・埴輪・ 刀	弥生時代後期・５世紀後半から６世紀前半にかけての集落址 泥流層により形成された舌状微高地に営まれた集落

高橋Ⅳ遺跡（古屋地区遺跡群）
発掘調査報告書

老人スポーツ広場用地取得事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

発　行　日　　平成21年３月31日
編集・発行　　安中市教育委員会
群馬県安中市松井田町新堀245
印　　刷　　朝日印刷工業株式会社
群馬県前橋市元総社町67